

令和2年度

なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書



令和3年4月

なごや生物多様性保全活動協議会

目 次

はじめに 1

なごや生物多様性保全活動協議会について 3

動物調査と保全対策部会 7

水辺の生きもの部会 11

生物情報モニタリングデータベース部会 14

オオキンケイギク対策部会 16

里山林・社寺林部会 18

なごや生きもの一斉調査2020～パッタ編～ 25

なごや生物多様性サマースクール2020 29

南神池（熱田神宮内）調査 31

会員活動支援 32

講演会開催
（名古屋昆虫同好会） 33

地域活動支援 34

細口池生きもの復活クラブ活動報告2020
（細口池生きもの復活クラブ） 35

助成金事業 36

みつばちと命のサイクルから学ぶ！
～BeeHappy∞Project～（地球ハグ倶楽部） 37

葦のストロー作り
葦プロ委員会（名古屋市立名古屋商業高等学校） 38

東邦高校近隣におけるブルーギル捕獲と透明標
本・樹脂標本の製作（東邦高等学校 科学研究部） 39

南山高等・中学校男子部 理科部生物班の活動
（南山高等・中学校男子部 理科部生物班） 40

国の天然記念物「木曽川のイタセンパラ」の保護に繋がる活動
（愛知県立木曽川高等学校 総合実務部） 41

タナゴ属の人工産卵装置の開発
～絶滅危惧種イタセンパラ保護のために～
（愛知県立一宮高等学校 生物部） 42

愛西市内を中心に用水路に生息する生物調査
（愛知県立佐屋高等学校 科学部） 43

私たちの愛鳥活動ー知ろう！滝脇の自然 守ろう！
私たちの森 広げよう！地域へー
（豊田市立滝脇小学校） 44

名城大学附属高等学校自然科学部の活動
ー庄内川における環境活動
（名城大学附属高等学校 自然科学部） 45

会員団体の活動紹介・報告

相生山緑地自然観察会 46

「あいちの海」グリーンマップ 46

愛知守山自然の会 47

雨池ホテルの会 47

大高緑地湿地の会 48

尾張サンショウウオ研究会 48

雑木林研究会 49

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会 49

地球ハグ倶楽部 50

中部蜘蛛懇談会 50

中志段味の自然を次世代に伝える会 51

なごや外来種を考える会 51

「なごや環境大学」実行委員会 52

公益社団法人 名古屋港緑地保全協会 52

名古屋昆虫同好会 53

名古屋産業大学 長谷川研究室 53

名古屋自然観察会 54

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち 54

名古屋市立大学大学院理学研究科
附属生物多様性研究センター 55

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会 55

NPO法人 なごや東山の森づくりの会 56

NPO法人 日進野菜塾 56

日本カメ自然誌研究会 57

日本野鳥の会愛知県支部 57

花水緑の会 58

隼人池を美しくする会 58

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会 59

三河淡水生物ネットワーク 59

名東自然観察会 60

名東自然倶楽部 60

もりづくり会議 61

守山リス研究会 61

名城大学野生動物生態研究会 62

矢田・庄内川をきれいにする会 62

山崎川グリーンマップ 63

1. 協議会設立10周年と愛称の決定

令和2（2020）年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の猛威が、社会経済活動に甚大な影響を及ぼすと共に、様々な活動に自粛、制限を求められる年となりました。なごや生物多様性保全活動協議会（以下、協議会）においても、毎年5月に開催している活動報告会は中止、夏休み期間の大人気企画のサマースクールも講座数や参加人数を制限した開催とし、運営面においても幹事会はオンラインのミーティングサービスを用いた遠隔会議とするなど少なからず影響を受け、全体的に活動は自粛傾向にありました。

未だにこうした状況下ではありますが、協議会は、令和3（2021）年5月15日に設立10周年を迎えます。会員の皆様はじめ、当協議会の活動に関心を寄せご参加頂きました皆様に感謝申し上げます。おかげさまで個人会員23名、団体会員42団体、市民調査員917名の組織へと発展してきました。また、これまでの活動の成果が認められ、今年度の7月に「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」に選定されました。

この節目の年を迎えるにあたり、会員から愛称を募集し、令和3年2月に「なごビオ」に決定しました。なごやの「なご」と、生物多様性 biodiversity など用いられる様に生物や生命を表す「bio（ビオ）」を組み合わせました。この愛称がなごやの皆様にとって、当たり前のご存在となる様に活動に努め、生物多様性と共にある豊かな都市生活に貢献できるように、尽力して参ります。ここで、今一度、生物多様性を取り巻く社会状況とそこでの協議会の動向をご紹介します。

2. ポストコロナの生物多様性保全

平成22（2010）年に生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋国際会議場で開催され、2020年までの20の目標をもつ愛知目標が採択されました。それから10年が経過した2020

年（9月15日）に愛知目標の最終評価を記した「地球規模生物多様性概況第5版（GBO5：Global Biodiversity Outlook 5）」が発表されました。結果的に最終評価は非常に低く、目標達成は20個中ゼロで、20目標を細分化した60要素で達成されたと判断できるのが7要素（外来侵入種経路優先度、陸の保護地域面積、海の保護地域面積、名古屋議定書発効、国家戦略策定、科学技術増大、国際資源フローの倍増）となり全体の約1割という結果でした。

2020年度に開催し、2030年までの次期目標を設定するはずだったCOP15はコロナ禍で延期となり、2021年度中での開催が検討されています。この会議で設定される次期目標にはぜひ注目したいと思います。また関連として、次期生物多様性国家戦略（2021-2030）や愛知県の次期生物多様性地域戦略（2021-2030）も検討に入り、次年度中に発表される予定です。

こうした最中のコロナ禍において、生物多様性保全においても新たな局面が見えてきました。新型コロナウイルスや、西ナイル熱、エボラ出血熱、SARSやMARSなどこの20年の間に世界で流行した感染症は、全て、動物由来感染症です。その発生や流行のメカニズムは単純ではないものの、自然の損失や劣化がもたらす人と自然の関係の変化が、野生動物が保有するウイルスによる感染症の発生と感染拡大につながったこと、その頻度や影響の拡大が年々増加していることが指摘されています。野生動物から人だけでなく、野生動物から家畜そして人への感染というルートもあることから、自然・人・家畜がともに健康である「One Health（ワンヘルス）」の考え方が、自然と共生する社会の構築にとって重要であると指摘されています。都市圏の生物多様性保全においてもこの考え方は決して他所事ではないでしょう。都市住民の健康もやはり、地域の健康な生態系に支えられていると考えられます。この考え方はまた、国連加盟国が2030年までに達成すべき目標として掲げて

いる持続可能な開発目標（SDGs）の達成においてもカギとなる考え方として注目されています。

3. 都市圏なごやの保全活動の意味を問い直す

協議会の名称に含まれている「なごや」には、名古屋市内だけでなく、周辺地域を含む伊勢湾流域圏全体を指しており、これを活動範囲とする意味が込められています。つまり名古屋都市圏の都市生態系並びに生物多様性の保全を対象にしていると言えます。この視点は、協議会活動の展開を検討する上で重要で、いつも顧みて、活動内容を改善、強化していきたいと考えています。

世界的に都市圏への人口流入が進み、高齢化も進行すると見られています。その一方で自然への関心が失われる自然離れも世界的に起きているとの指摘があります。私たちは、こうしたある種矛盾した状況の中で、自然環境と共生した持続可能な社会を形成していく必要性に迫られています。この局面において、都市生態系の保全に求められていることは、多くの市民の身近な自然として、子どもたちへの環境教育や心身の健康のための多世代への環境福祉に関わる活動であるとの認識がより重要性を増してくると考えられます。

4. 協議会の進展と今後

こうした状況の中、協議会の組織にも進展があります。平成26（2014）年に部会として発足し、全国に先駆けて特定外来生物のオオキンケイギクの駆除活動を行い、その考え方を広めてきた「オオキンケイギク部会」は、部会としての活動を終えました。今後は広報PR事業の一環として、抜き取り活動を市民への普及啓発という形で引き継ぐこととなりました。「オオキンケイギク部会」の活動は、発足のきっかけとなった平成25（2013）年のオオキンケイギク一斉調査から、現地での抜き取り活動を重ね、より効果的な駆除方法を明らかにすることで社会か

らも注目され、他地域において指導的役割を果たすこともありました。協議会活動の中で、地域外からも注目される活動としてその存在意義は大きいものでした。

この一方で、協議会の調査活動をより充実、発展させるために、「両生類部会」が新部会として発足します。この部会の部会長は、名古屋市版レッドリストの選定に携わっている専門家です。この体制での部会活動により、協議会は、なごやの生き物の最新の専門情報を収集する組織としての機能がより充実することが期待されます。また、保全団体にとってはより高度な保全活動の推進に、専門家にとっては地域の保全実態に基づいた調査活動に、さらに、今後更なる参加が期待される高校生・大学生等のユース世代にとっては、保全の現場において、実践的な専門知識・技術を身に付けることが出来る組織になりつつあります。今後はさらに、企業等の民間組織の参加も推進し、協議会自体を持続可能に発展する組織、仕組みとなる様に進展を図ります。こうした組織の変化は、徐々に成果としても現れており、協議会の部会活動で得られた情報が名古屋市版レッドリスト・レッドデータブックに反映されることも多くなってきました（詳しくはこの概要版をご覧ください）。なごやの生物多様性保全にとって、協議会の存在はより大きな意義を持つ様になってきています。

なごや都市圏の生物多様性保全を担う組織として、協議会という多様な主体が参加し、それぞれの得意分野を持ち寄って事業展開する組織であることには、大きな期待が持てると考えています。この強みを見直し、一層の活動の充実を図っていきたいと考えています。これからも皆様からのご支援、ご参加、そしてご指導を賜りたいと存じます。

なごや生物多様性保全活動協議会について

協議会の設立

名古屋市には東部丘陵地を中心に111箇所ものため池が現存しています。しかしながら、都市農業の衰退により、ため池の主な役割が「利水」から「治水」に変化しました。そのため、人とため池との係わりが希薄化したことや、外来種の侵入によって在来の生きものが減少したことで、ため池生態系の劣化が進んでいると言われています。

COP10開催決定を契機に、平成20年度から3年間、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」を設立し、地域住民・市民団体・行政が協働でため池の生物調査や保全活動を行ってきました。

平成23年度からは、ため池に限らず他の生態系まで対象範囲を広げるとともに、侵略的な外来種の防除に力を入れるなど、活動内容を拡充するため、「名古屋ため池生物多様性保全協議会」の組織体制と人材を拡充し、「なごや生物多様性保全活動協議会」（以下「協議会」といいます。）を平成23年5月15日に設立しました。

協議会の設立目的は、「なごやに生息・生育する生物及びその環境を継続的に調査し、生物多様性の現状を把握するとともに、外来種防除などを通し、身近な自然の保全を実践する」ことです。

協議会の活動

協議会は、設立目的に基づき、市民・専門家・行政の協働で生物多様性に関する調査・保全活動を実施しています。

活動を支える事務局と拠点は「なごや生物多様性センター」が担っており、平成23～25年度の活動は、環境省からの交付金（環境省生物多様性保全推進支援事業）および名古屋市からの負担金により、平成26年度の活動は、一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成金および名古屋市の負担金により、平成27年度以降の活動は、名古屋市の負担金のみにより、事業を实

施しています。

協議会が令和2年度に取り組んだ主な調査・保全活動は、アライグマ・ミシシippアカミミガメ・オオキンケイギクなどの外来種対策、市内のため池・水路などにおける生物調査と外来種防除等を実施しました。

また、身近な自然や生きものに一層の関心をもっていただく機会として、8月に小中学生を対象とした「なごや生物多様性サマースクール2020」を、10月には「なごや生きもの一斉調査2020」としてバッタの調査を市民のみなさんと共に行いました。

調査・保全活動を通して得た結果については、収集・蓄積し今後に生かすために、生物情報モニタリングデータベースの構築を進めています。

協議会の取り組みを発信する場として、令和3年5月9日に活動報告会を実施します。

協議会の構成

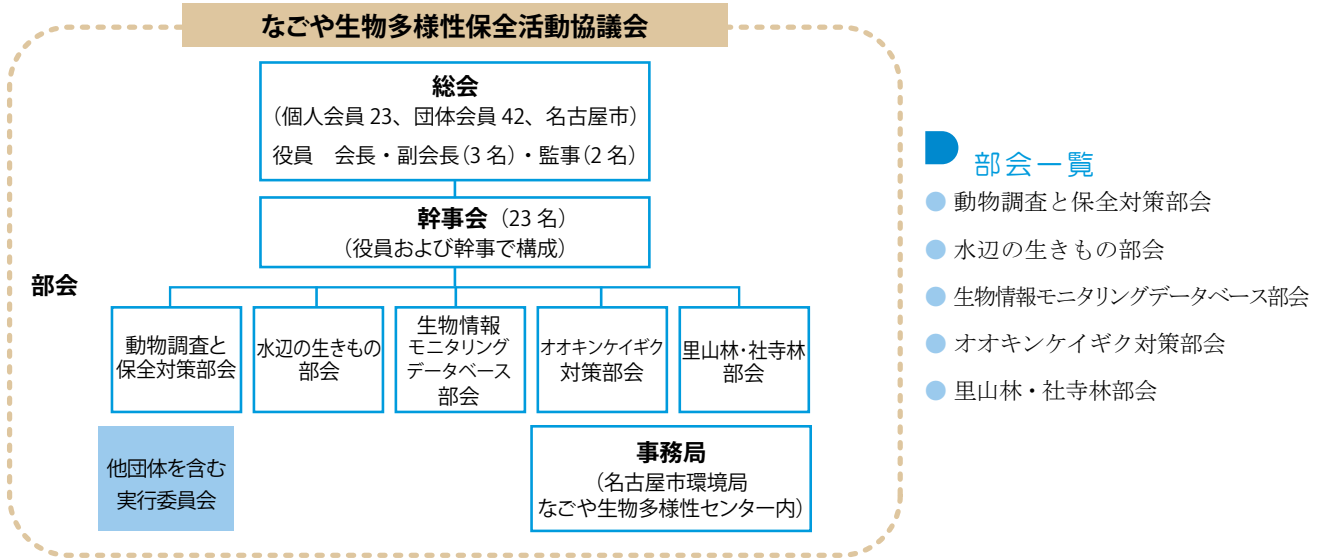
協議会は、令和3年3月末現在、23の個人会員、42の団体会員、名古屋市で構成しています。1年間の事業計画や事業報告については、総会にて議決します。

また、役員（会長・副会長3人・監事2人）と幹事（17人）を置き、幹事会にて運営に係る事項について協議しています。

事業の実施にあたっては、活動分野ごとに部会を設置し、部会ごとに調査内容・方法・日程・調査者等の計画を作成し、実施しています。事務局は、各部会や実行委員会の実施する調査や会議、イベントについて、準備、連絡調整等の役割を担っています。

市民の方を対象に、協議会が実施する調査やイベントなどへ参加いただく仕組みとして、「なごや市民生きもの調査員」を募集しています。登録いただいた方へは、イベントなどの募集情報を随時案内しています。（令和3年2月28日現在・登録者数960名）

令和2年度協議会の組織・構成



幹事一覧

(令和3年3月末現在・敬称略)

氏名	所属等	備考
石原 則義	愛知守山自然の会／名古屋自然観察会	
梅本 洋子	花水緑の会	副会長
大塚 徹	市内外来種及びため池調査	
大沼 淳一	個人会員 (専門分野／水質)	
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ	
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院理学研究科生物多様性研究センター	
小菅 崇之	個人会員 (専門分野／水生植物)	副会長
榊原 靖	名古屋市環境科学調査センター 研究員	
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会	
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会	監事
高木 和彦	名東自然倶楽部	
瀧川 正子	NPO法人 なごや東山の森づくりの会	
寺西 慶徳	なごや環境大学実行委員会	監事
富田 啓介	愛知学院大学教養部講師	
野中 賢輔	なごや外来種を考える会	
橋本 啓史	名城大学農学部生物環境科学科准教授	副会長
長谷川 泰洋	名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室	会長
堀田 守	名東自然観察会	
松村 豊重	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)	
間野 隆裕	名古屋昆虫同好会	
眞弓 浩二	雑木林研究会	
森山 昭彦	中部大学応用生物学部環境生物科学科教授	
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会	

なごや生物多様性保全活動協議会について

● 会員一覧

● 団体会員

団体名
相生山緑地自然観察会
「あいちの海」グリーンマップ
愛知守山自然の会
雨池ホタルの会
荒池ふるさとクラブ
伊勢・三河湾流域ネットワーク
大高緑地湿地の会
尾張サンショウウオ研究会
特定非営利活動法人 環境市民 東海事務所
白玉星草と八丁トンボを守る島田湿地の会
雑木林研究会
滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
地球ハグ倶楽部
中部蜘蛛懇談会
中志段味の自然を次世代に伝える会
なごや外来種を考える会
なごや環境大学実行委員会
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会
名古屋昆虫同好会
名古屋産業大学環境ビジネスコース長谷川泰洋研究室
名古屋自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
名古屋市立大学大学院理学研究科生物多様性研究センター
名古屋市立鳴子台中学校科学部
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会
NPO法人 なごや東山の森づくりの会
NPO法人 日進野菜塾
日本カメ自然誌研究会
日本野鳥の会愛知県支部
花水緑の会
隼人池を美しくする会
特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会
三河淡水生物ネットワーク
名城大学理工学部環境創造学科齊藤研究室
名城大学理工学部環境創造学科谷口研究室
名東自然観察会
名東自然倶楽部
もりづくり会議
守山リス研究会
名城大学野生動物生態研究会
矢田・庄内川をきれいにする会
山崎川グリーンマップ

（令和3年3月末現在・敬称略）

● 個人会員

氏名
飯尾 俊介
伊東 英幸
太田 貴大
大塚 徹
大沼 淳一
加藤 航大
川瀬 基弘
小菅 崇之
佐藤 裕美子
高木 順夫
高見 真宏
高山 博好
津田 智
津田 美子
寺本 匡寛
土山 ふみ
研谷 厚
富田 啓介
橋本 啓史
伴 知幾
松沢 孝晋
守谷 茂樹
森山 昭彦

● 名古屋市

なごや生物多様性保全活動協議会事務局を、なごや生物多様性センター内に置く。

● 通常総会の開催

開催日	
5月15日	1 令和元年度事業報告について 2 令和元年度決算報告について 3 令和元年度会計監査報告について 4 令和2年度役員選任について 5 令和2年度事業計画（案）について 6 令和2年度収支予算（案）について

● 幹事会の開催

第1回	5月28日	1 一斉調査について 2 会員活動支援事業について
第2回	6月9日	1 サマースクールについて
第3回	6月25日	1 各部会報告等 2 令和2年度のイベントの予定について 3 取り扱い規程（文献取得）について
第4回	8月27日	1 各部会報告等 2 愛称・ロゴマークの募集要項について 3 活動報告書資料編について 4 一斉調査で捕獲した個体の寄贈について
第5回	9月24日	1 各部会報告等 2 両生類部会の新設について 3 愛称の先行募集について 4 活動報告書資料編について
第6回	10月22日	1 各部会報告等 2 活動報告書資料編について 3 愛称の募集について
第7回	11月26日	1 各部会報告等 2 オオキンケイギク対策部会のあり方について 3 愛称の審査基準について 4 会員活動支援事業について 5 令和2年度決算見込みについて 6 活動報告書資料編について
第8回	1月28日	1 各部会報告等 2 令和3年度事業計画・予算について 3 愛称の決定について 4 戦略的広報・協働ワーキンググループの中間報告について 5 令和2年度執行残の用途について 6 会員活動支援事業の変更について
第9回	2月25日	1 各部会報告等 2 愛称・ロゴマークについて 3 令和3年度事業計画・予算について 4 令和3年度総会・令和2年度活動報告会について

はじめに

市内と周辺地域に生息する野生動物について、部会員と有志（学生、専門家、大学研究室、保全団体等）が協力して、種ごとの分布状況や生息環境を明らかにすることを目的としている。

また、調査で採集、捕獲した生物や駆除等で捕獲した生物について、計測や解剖、標本化を実施している。それらの結果や標本については「なごや生物多様性センター」に収蔵・蓄積している。

さらに、これらの結果や資料を基に、外来種の防除や在来種の保護、保全を計画、実施している。

その他、活動内容や成果を伝える啓発、展示、環境学習、調査実習、大学生の卒業論文等にも協力している。

主な活動内容

- カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除
- ニホンイシガメの保護・保全
- 哺乳類の生息分布調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除
- コウモリ類の生息分布調査
- 才井戸流周辺に生息する動物の保護・保全活動
- 標本の作製と分析
- ウシガエルの防除活動

今年度の活動記録

●カメ類調査とアカミミガメ等外来カメ類の防除

内容 カゴ罟を使用したカメ類の捕獲調査は以下の場所と日程で実施した。

山崎川（瑞穂区）：8月1日～2日

細口池（天白区）：8月28日～29日

すり鉢池（名東区）：9月28日～30日

こもれば池（名東区）：9月28日～30日

隼人池（昭和区）：10月26日～28日

また、浮島型罟を使用したカメ類の捕獲調査は、以下の地域と日程で実施した。

隼人池（昭和区）：4月1日～

二ツ池（守山区）：8月24日～

細口池（天白区）：8月28日～

すり鉢池（名東区）：9月14日～

その他、池干しに伴うカメ調査等

南新池（熱田区）：4月5日

ガマ池（西区）：12月8日

大根池（天白区）：10月13日、27日、28日

平池（名東区）：1月8日、2月5日

竜ヶ池（昭和区）：3月に実施予定

連携 二ツ池の自然と緑を守る会、隼人池を美しくする会、名東自然倶楽部、細口池生きもの復活クラブ、山崎川グリーンマップ、名古屋ECO動物海洋専門学校。



浮島型罟の設置（すり鉢池）

●ニホンイシガメの保護・保全

内容 オスの確認数が著しく減少しているニホンイシガメについて、オスの孵化を目的として孵卵温度(27℃以下)を管理し、繁殖させた。また、一部、メスの孵化を目的として孵卵温度を28℃以上に設定し、管理した。

連携 名古屋ECO動物海洋専門学校。



産卵場所の整備(鏡ヶ池産)

●哺乳類の生息分布調査とアライグマ・ヌートリア等外来哺乳類の防除

内容 センサーカメラの設置は以下の場所で行った。

大高緑地：4月1日～

東山動植物園：4月1日～

小幡緑地：4月1日～

東山公園南部：7月15日～

猪高緑地：3月に予定

明德公園：3月に予定

平和公園：3月に予定

アライグマ等外来哺乳類の防除は以下の場所で行った。

猪高緑地：6月5日～7月31日。

また、3月にも予定

八竜緑地：3月に予定

小幡緑地：3月に予定

大高緑地：3月に予定

連携 花水緑の会、名東自然倶楽部、愛知守山自然の会、水源の森と八竜湿地を守る会、名古屋大学未来材料・システム研究所林研究室。



センサーカメラの設置(東山公園南部)



箱罠の設置(猪高緑地)

●コウモリ類の生息分布調査

内容 以下の地域と日時で音声調査を実施した。
大村池(守山区)：4月以降、月3～5回実施。

庄内川(守山区)：5月11日

東谷山(守山区)：6月29日

動物調査と保全対策部会



コウモリ類の音声調査（大村池）

●才井戸流周辺に生息する動物の保護・保全活動

内容 キクガシラコウモリが確認されている才井戸流では、出巢と帰巢の確認のために、ねぐら入口付近に自動録音装置を設置した。

- 1回目：5月11日～13日
- 2回目：9月1日～2日
- 3回目：10月12日～11月10日

連携 中志段味の自然を次世代に伝える会。



キクガシラコウモリのねぐら調査（才井戸流）

●標本の作製と分析

内容 なごや生物多様性センターで収集している動物（アライグマ、ハクビシン、ヌートリア等）についての解剖と標本作製を実施した。

- 1回目：6月9日
- 2回目：8月21日
- 3回目：9月25日
- 4回目：12月25日

連携 名城大学野生動物生態研究会、なごや生物多様性センター。



スナメリの解剖と標本作製（なごや生物多様性センター）

●ウシガエルの防除活動

- 内容** ウシガエルの防除捕獲を実施した。
- 井堀下池（猪高緑地）：6月5日
～7月31日
 - メダカ池（猪高緑地）：6月5日
～7月31日
 - すり鉢池（猪高緑地）：9月28日～30日
 - こもれば池（猪高緑地）：9月28日～30日

連携 名東自然倶楽部、名古屋ECO動物海洋専門学校。



平池で捕獲したアカミミガメ



捕獲罠の設置（猪高緑地・めだか池）



飼育下でふ化した鏡ヶ池産のニホンイシガメ

結果の概要と今後について

調査結果については、今後、資料編でまとめる。



東山動植物園で撮影されたアカギツネ

水辺の生きものの部会

部会長 榊原 靖／小菅 崇之／早川 凌平

はじめに

水辺の生きものの部会では、名古屋市及びその近郊にある水域に生息・生育する水辺の生きものについて、なごや生物多様性保全活動協議会員、市民調査員、学生、専門家、保全団体などと協働で分布調査、生息・生育環境調査を行っています。また、環境教育や次世代育成にも力を入れています。これらの活動から得られた知見を発信し、在来種の保全対策や外来種の防除対策を計画・実施することにより、生物多様性の保全に寄与しています。

後も定期的なモニタリング調査が必要だと考えられます。



図1. フネドブガイ

令和2年度の主な事業

- 池干しモニタリング調査
- 次世代育成とカワバタモロコの保全
- なごやの希少種対策
- 外来種対策および普及啓発

執筆者：早川 凌平

令和2年度の活動記録

●池干しモニタリング調査

○庄内緑地（ガマ池）

2019年度に池干しを行った庄内緑地ガマ池において、2020年6月12日と12月8日に生物相変化の把握と、名古屋市初記録となったフネドブガイの生存確認を目的とし、タモ網とモンドリを用いてモニタリング調査を行いました。在来種はヨシノボリ類、フナ類、ドジョウなどが確認できました。フネドブガイは生存を確認できましたが（図1）、池干しの際に見られたグロキディウム幼生は確認できませんでした。外来種は、コイ、カダヤシ、アメリカザリガニなどが確認されました。一方で、池干し後に生きものが確認されたことは、降雨による増水で、隣接するポート池からの流入があった可能性を示し、今後の外来種の侵入が懸念されます。外来種対策、フネドブガイの生存と繁殖の確認のため、今

○戸田川緑地（とだがわ生態園）

戸田川緑地では、カワバタモロコの保全池として機能させるため2018年度に池干しが行われ、2019年3月には45匹のカワバタモロコが放流されました。生物相変化の把握と保全機能の評価を目的とし、2019年度に引き続きモニタリング調査を2020年10月21日に行いました。タモ網とモンドリによる捕獲では、特にヌマエビ、モツゴ、アメリカザリガニが多く確認され、確認できた種はこれまでのモニタリング調査と同様でした。カワバタモロコは昨年度に続き確認できませんでした。野生下でのカワバタモロコの寿命は1年程度とされていることから、3月に放流した個体が生存している可能性は限りなく低いと考えられます。現在の戸田川緑地では多くのアメリカザリガニ（図2）やモツゴ、ウシガエルが生息しており、カワバタモロコを定着させることは難しいと考えられます。カワバタモロコの保全池として機能させるには、継続的な調査と外来種除去活動が必要です。



図2. 捕獲されたアメリカザリガニ

執筆者：早川 凌平



図3. 環境学習講座の様子

執筆者：早川 凌平

●次世代育成とカワバタモロコの保全

○環境学習講座

2018年度に行われた戸田川緑地の池干しを受け、2019年度に引き続き、カワバタモロコ保全の普及啓発活動として、名古屋市港区の福春小学校において出前授業を行いました(図3)。6年生を対象に「総合的な学習の時間」として、環境学習講座を6月、11月、2月の3回行いました。環境教育活動と後進育成を目的として、全講座を通じ大学生が講師を務めました。授業中の積極的な姿勢から、児童たちはカワバタモロコや環境保全に関して興味関心を持っているように感じました。また児童一人一人が環境保全のためにどのようなことができるのかを考える機会となっており、級友と意見交換をすることによって、より学びを深められていると考えられます。環境教育を浸透させるためにも引き続き活動を行っていくべきだと考えています。

水辺の生きものの部会

●なごやの希少種対策

○水田雑草の調査

千種区、東山の森の水田において2015年度に絶滅危惧種のトリゲモ類が確認され、その後も調査を続けてきました。トリゲモ類は年を追うごとに自生域が減少していましたが、2019年9月には全てのトリゲモ類が消失してしまいました。消失の原因について、アメリカザリガニによる食害が疑われましたので、2019年秋になごや東山の森づくりの会の方々がザリガニの捕獲を行い、340匹を駆除しました。

2020年7月に調査を行ったところ、広い範囲においてトリゲモ類の自生を確認しました(図4)。トリゲモ類の回復についてアメリカザリガニが原因と断定することはできませんが、引き続き捕獲を続け、トリゲモが永く自生してくれればと思います。



図4. 自生するトリゲモ類

執筆者：小菅 崇之

●外来種対策および普及啓発

○園芸スイレンの除去

11月に鳥根県より、NPO法人 緑と水の連絡会議および、鳥根県自然環境課の方々が、当協議会の園芸スイレン除去活動についてヒヤリングに來られました。鳥根県の姫逃池に放たれた園芸スイレンの除去方法について、当協議会の

経験をお話しさせていただきました。

また、12月には千種区の東山新池で、園芸スイレンの除去活動を6名で行いました(図5)。自生するヒシやマツモの生える水域を維持するため、夏の間は1mほど伸びたスイレンの根茎を掘り出しました。



図5. 東山新池園芸スイレン除去活動の様子

執筆者：小菅 崇之

生物情報モニタリングデータベース部会

生物情報モニタリングデータベース部会 部会長・名城大学農学部 橋本 啓史

はじめに

生物情報モニタリングデータベース部会では、協議会の行う生物調査・既存文献・市民の通報などから得たなごやの生物多様性の現況についての情報を集約・一括管理するとともに、集約された生物情報を広く提供するツールとして活用することを目的として、平成23年度からデータベースの構築を行っている。

主な活動内容

なごやの生物情報の市民通報の窓口となるデータベース登録システムと、集約された情報を基に分布（確認）状況を地図上に表現する解析・発信システムを協議会ウェブサイト上で稼働させており、25種の生物の分布情報の収集と7種の分布図の発信を行っている。

生物情報モニタリングデータベースのページ
<http://www.bdnagoya.jp/creature/database.html>

今年度の活動記録

●部会の開催

今年度は2回の部会を開催した。

●生物情報の収集・登録・発信

○市民からの生物情報の収集

協議会のウェブサイト上に設置した『生きもの情報登録フォーム』を使い、広く市民から目撃情報の募集を行った。情報を募集したのは表1に示す25種類の動植物である。

今年度は（令和2年4月から令和3年1月末までに）、46件の情報が寄せられた。新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出や事務局主担当の交代により定期的な市民への呼びかけができなかったが、昨年度より1件増

加した。種別ではツバメの9件が最多であった（表2）。

表1. 情報を募集している生物の一覧

哺乳類	アライグマ、タヌキ、ハクビシン、ヌートリア
鳥類	ソウシチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、コアジサシ
は虫類	ニホンイシガメ、クサガメ、ニホンスッポン、ミシシippアカミミガメ
両生類	ニホンアマガエル、アズマヒキガエル、ウシガエル
魚類	アユ、ニホンウナギ、サツキマス（アマゴ）
昆虫	タイワンタケクマバチ、クマバチ、ムネアカハラビロカマキリ、ハラビロカマキリ
植物	オオキンケイギク、外来スイレン

表2. 種ごとの1年間に情報が寄せられた件数

分類	種名	件数
哺乳類	アライグマ	2
	タヌキ	2
	ヌートリア	8
鳥類	イワツバメ	2
	ツバメ	9
は虫類	ニホンイシガメ	2
	ニホンスッポン	2
	ミシシippアカミミガメ	2
両生類	ニホンヒキガエル	1
	ウシガエル	2
魚類	ニホンウナギ	1
昆虫類	タイワンタケクマバチ	3
	ムネアカハラビロカマキリ	2
植物	オオキンケイギク	8
合計		46

寄せられた情報は管理者等が確認し、信ぴょう性の低いものを除いて、生物情報モニタリングデータベースに登録し、蓄積している。

○協議会の調査結果等のデータベースへの登録

協議会の調査結果等のデータベースへの登録は、春に作業予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって部会員が作業することができず、あまり進んでいない。

なお、なごや生物多様性センターでも生物情報のデータベース構築を検討しており、今後、協議会のデータベースを統合していく方針で相談を進めている。

○生物情報のウェブサイト上での提供

ウェブサイト上に公開したデータベースに登録した情報を基に、分布（確認）状況を三次メッシュで地図上に表現するシステム（なごや生物情報閲覧システム）の維持・管理を行った。

なごや生物情報閲覧システムを介して広く一般に情報を公開する種は、希少種を除き、ある程度の情報が蓄積された種から順次、システムで情報を公開している。現在公開しているのは、オオキンケイギク、外来スイレン、ヌートリア、ソウシチョウ、ツバメ、ミシシippアカミミガメ、タイワンタケクマバチの計7種である。図1にツバメの分布図を示した。

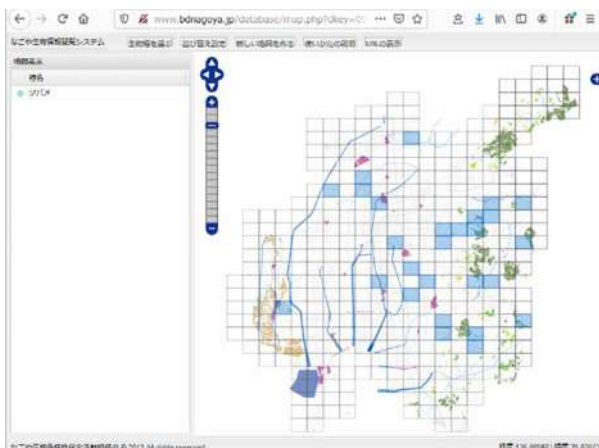


図1. ツバメの分布図

○写真・フィルムのデジタルデータ化およびデータベース作成

寄贈された過去のなごやの自然の写真・フィルムを活用するため、写真・フィルムのデジタルデータ化を進めている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって部会員があまり作業することができず、ネガフィルムから364枚の写真のデジタル化が進んだだけである。

なお、昨年度までにデータベース化された写真のリストを活動報告書資料編に掲載している。

○空中写真の蓄積（ドローンによる空撮）

今年度は名東区猪高緑地のすり鉢池（来年度の池干し予定地）集水域での撮影を12月2日に実施した。また、動物部会の希望で、アカガエル産卵期のすり鉢池の状態も3月上旬までに撮影予定である。



図2. 猪高緑地すり鉢池集水域のドローン画像

結果と今後について

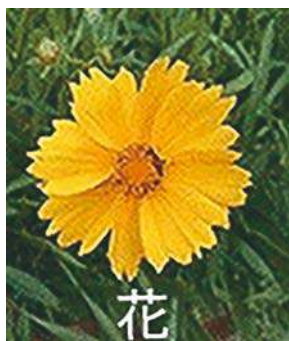
今後もこれまで通り生物情報および写真の収集・登録・発信を行っていく。なごや生物多様性センターのデータベースとの統合についても議論していく。

オオキンケイギク対策部会

部会長 野中 賢輔

オオキンケイギクとは

オオキンケイギク(学名: *Coreopsis lanceolata*)とは北アメリカ原産のキク科の多年草で、背の高さは30~70cm、毎年5月~7月ごろにコスモスに似た黄色い花を咲かせます。戦後、緑化工事に多く使用されましたが、繁殖力が強すぎて侵略性が問題となり、2005年に特定外来生物に指定されました。なごや生物多様性保全協議会では2013年に市民200名でオオキンケイギクの名古屋市内分布調査を行い、庄内川や天白川の河川敷に多数分布していることを確認しました。その後、2014年に「オオキンケイギク対策部会」を設立しました。2020年時点での部会員は9名です。7年間活動しましたが、部会長の体調不良によって2020年度をもって部会は解散し、以後は広報・PR部会内の事業として継続していきます。



昨年までの主な活動内容

「オオキンケイギク部会」は、2014年初めに駆除実験を行いました。矢田川のふれあい橋付近で①根ごと抜き取る、②根を残して草のみを刈取る、③根を残して花のみを切る、の3つの駆除方法を9週間試行し、再生状況を検証しました。結果的には①の根ごと抜き取り法だけが再生率18%と、駆除効果を確認できました。

2015年度からは、山崎川の河川敷において駆除活動を始めました。市民に親しまれていて川の全長も短いため駆除効果が見えやすいので、山崎川を選びました。名古屋建設業協会とも連携して、市民調査員、部会スタッフで活動してきました。2019年度までの5年間の駆除活動実績は表のとおりです。

2015年度から2019年度における駆除活動実績

年度	活動参加者数(延べ)	駆除量(40L袋の数)
2015	216人	93袋
2016	211人	167袋
2017	54人	29袋
2018	173人	36袋
2019	163人	39袋
計	817人	364袋

2020年度の活動報告

2020年度は、新型コロナウイルスの影響で活動の縮小を余儀なくされ、毎年行っていた名古屋建設業協会と連携した山崎川の抜き取り活動は中止になりました。また市民による抜き取り会は場所を移して猪高緑地で計画していましたが、こちらも新型コロナの影響で中止としました。ただし、スタッフだけでは5~6月に2回行っております。延べ4人で5袋分駆除しました。また山崎川のオオキンケイギクも今年放置したためか再び増えつつあるので、スタッフによって5月に延べ4名で13袋分の駆除活動が行われました。

オオキンケイギク対策部会



2020年猪高緑地で駆除活動



2020年山崎川で駆除活動

今後の活動について

部会長の野中が体調不良のため、部会の存続が困難になり、2020年度をもってオオキンケイギク対策部会は解散することになりました。しかしオオキンケイギク事業は、啓発目的の市民抜き取り会と山崎川での繁殖抑制活動を中心に、広報・PR事業の一環として継続していく予定です。身近な特定外来種であり、やっただけ確実に駆除できるためアピールしやすい利点があるのです。

まとめ

2014年度から2020年度までのオオキンケイギク対策部会の活動としては、連携活動も含めて、以下の成果を上げることができました。

1. オオキンケイギクの駆除には、根より上の地上部（茎や葉、花）を刈り取るだけの方法では不十分であり、刃の付いていない「根掘りガマ」などを使って根ごと抜き取る方法が最も効果的だとわかりました。



根掘り用のカマ

2. 延べ825名が抜き取り活動に参加し、40Lの袋換算で382袋のオオキンケイギクを駆除することができました。特に山崎川河川敷において、繁殖度合いが目に見えて減ってきました。



2015年 山崎川で 市民抜き取り会

3. 抜き取り活動に参加した市民やマスコミなどを通じて、オオキンケイギク問題について広く普及啓発することができました。いつのまにか愛知県内にオオキンケイギク駆除活動をする団体が増えてきたことも、当部会が先駆的に活動・情報発信したためと自負しております。

里山林・社寺林部会

長谷川 泰洋（名古屋産業大学）／橋本 啓史（名城大学）／西部 めぐみ（なごや生物多様性センター）

はじめに

里山林・社寺林部会は、本年度で4年目となりました。本部会は、里山林や社寺林等の樹林地を対象として、その保全管理の効果や植生の質（郷土種の保全状況、希少種、巨樹の分布・生育適地等）の調査を進め、より生物多様性保全に資する保全手法を開発し、啓発に資する知見を集積することを目的にしています。

部会事業は、昨年度の活動を引き継ぎ、事業①里山・社寺林における植物、植生調査、事業②希少種の生育環境調査、事業③外来種・郷土種使用の実態に関するアンケート調査、事業④巨樹の生育状況調査、事業⑤伐採木の樹幹解析、萌芽調査を行い、そして、事業⑥日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討を行いました。

事業①及び④では、名東区及び熱田区を主な調査地として、区別に集中的に調査を行い、成果の可視化を図るとともに、区土木事務所や地元保全団体等の地域団体との情報共有を図りました。事業②では、カンアオイ類や昨年度の千種区等の調査から今後絶滅危惧になる可能性があると考えられる陽性の低木種であるザイフリボク、ウツギ類、アジサイ類に着目して、市内の網羅的な分布調査及び情報収集を行いました。

その結果、名東区猪高緑地では、クロミノニシゴリの集団を確認しました。また、市内のウツギ類、アジサイ類が想定以上に少ない実態を把握するなどの成果を得ることが出来ました。

活動成果の詳細や分析結果は資料編などの別稿にて報告する予定です。本報告では、各事業の活動状況と主な成果、活動の様子を報告します。

令和2年度の主な活動と成果

事業①：里山・社寺林における植物、植生調査

本年度は名東区及び熱田区内の主要な樹林地を対象として、フロラリスト及び代表地点にお

ける植生調査を行いました。

期間 2020年5月～11月

場所 明德公園(5/28、6/18)、猪高緑地(5/29、6/29、10/15)、光風園神社(6/14)、牧野ヶ池緑地(6/6、7/16、10/14)、貴船社・猪子石神明社(6/22)、平和が丘(7/2)、高座結御子神社・白鳥古墳(11/9)

活動回数 12回

延べ参加人数 58人

成果 名東区内の主要な樹林地で約370種のフロラリストが作成できました。熱田区内では、約120種のフロラリストが作成できました。

昨年の千種区に続き、名東区内の緑地で1～数個体ずつしかいない陽性の低木種が存在することが明らかになりました。さらに、同じく名東区内の緑地では、これまでに名古屋市内で確認されていない複数のシダ類を確認しました。この内、メシダ科ノコギリシダ属ニセコクモウクジャク（写真1）は暖地性の植物で、県内では渥美半島などの数か所でしか確認されていません。名東区の産地は東海地方では北限産地で、国内でも北限産地に近い貴重な発見となりました（詳しくは、なごや生物多様性センター機関誌「なごやの生物多様性 第8巻」参照）。



写真1. ニセコクモウクジャク（名古屋市内初記録）

熱田区の調査では、市内では稀な暖地性のシロダモ（写真3）、カゴノキ（写真4）を確認しました。シロダモは雌雄が確認され、開花、結実も確認されました。



写真2. 牧野ヶ池緑地の調査の様子
写真中央は市内では稀な大きなカスミザクラ。



写真3. 白鳥古墳のシロダモ（雄花）
高木の被陰で枝葉が少なく胴吹きが多数見られた。



写真4. 白鳥古墳のカゴノキ
周囲の樹林による被陰で状態は良くない。

事業②：希少種の生育環境調査

(1) クロミノニシゴリ、ザイフリボク等の調査

今年は昨年につき、東海丘陵要素植物のクロミノニシゴリと減少が懸念されるザイフリボクと新たにアジサイ属、ウツギ属、タニウツギ属（タニウツギ、ウツギ、ノリウツギ、コガクウツギ、コアジサイ、ヤマアジサイ、ツルアジサイ、イワガラミ）を対象として、市内の網羅的な分布調査、情報収集を行いました。

期間 2020年4月～11月

場所 猪高緑地（4/23、11/12）、平和公園（5/20）、相生山緑地（10/28）

活動回数 4回

延べ参加人数 16人

協働 愛知守山自然の会、NPO法人なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部

成果 クロミノニシゴリ（写真5）の新たな分布として、猪高緑地で成木12本と幼木1本、名東区藤巻町で成木1本を確認しました。ザイフリボク（写真6）の新たな分布として、明德公園内で成木1本、藤巻町で成木1本を確認しました。多くの個体は、周囲の樹林に被圧され、枝張りも小さく、枝数、葉数が少なく、消滅が危惧される状態でした。

アジサイ属、ウツギ属、タニウツギ属の樹木は、想定以上に少ないことがわかり、ウツギ、ノリウツギの分布を確認しました。ウツギが最も多く確認された猪高緑地では10本程度、その他、平和公園では1本、明德公園では2本でした。ノリウツギは守山区小幡緑地や東谷山では多数確認できますが、他の区ではわずかに残存し、藤巻町1本、緑区神神社で1本のみなどと確認できた場所でも数本程度の確認となりました。

アジサイ属は、東谷山におけるコアジサイ以外は分布情報を得られませんでした。



写真5. 猪高緑地で確認された市内最大級のクロミノニシゴリ(写真中央の株立個体)
樹高8.2m、胸高直径12.3cm・11.8cm、枝張り北:0.5m、東2.4m、南3.8m、西3.3m

表1. クロミノニシゴリの分布

区	緑地名	クロミノニシゴリ
守山区	東谷山	○
守山区	小幡緑地	○
名東区	明德公園	×
名東区	猪高緑地	○
名東区	牧野ヶ池緑地	○
名東区	藤巻町	○
千種区	平和公園	○
千種区	天白溪	○
千種区	八事裏山	×
千種区	名大構内	×
千種区	茶屋ヶ坂公園	○
千種区	城山八幡宮	×
天白区	相生山緑地	○
天白区	天白公園	○
天白区	荒池緑地(+針名神社)	○
緑区	滝ノ水緑地	○
緑区	大高緑地	○
緑区	桃山公園	○
緑区	細根公園	×
緑区	氷上姉子神社	×
緑区	水広公園	○
緑区	勅使ヶ池緑地	○
緑区	勅使池	○



写真6. ザイフリボクの花(2019年4月12日撮影)

表2. ノリウツギ、ウツギ、ザイフリボクの分布

区	緑地名	ノリウツギ	ウツギ	ザイフリボク
守山区	東谷山	○	未	×
守山区	小幡緑地	○	×	○
守山区	八竜湿地	×	×	×
名東区	明德公園	×	○	○
名東区	猪高緑地	×	○	×
名東区	牧野ヶ池緑地	×	×	×
名東区	藤巻町	○	○	○
千種区	平和公園	×	○	○
千種区	天白溪	×	○	×
千種区	八事裏山	×	×	×
千種区	茶屋ヶ坂公園	×	×	○
千種区	城山八幡宮	×	×	×
天白区	相生山緑地	×	○	○
緑区	滝ノ水緑地	×	×	×
緑区	桃山公園	×	×	×
緑区	細根公園	×	×	×
緑区	徳重熊野神社	○	×	×
緑区	氷上姉子神社	×	×	○
天白区	島田緑地	○	×	×

(2) カンアオイ類の生育状況調査

市内のカンアオイ類は、ヒメカンアオイ(小型種をゼニバサイシンといい、東海地方に多い)とスズカカンアオイが確認されています。カンアオイ類の種子はアリ散布のため、移動が大変遅く、その生育地は長らく自然環境が維持されてきたことの証左となります。こうしたことが

ら、まずは市内における網羅的な分布を把握することを目的として、分布、個体数、開花状況の調査を行いました。

期間 2020年2月～11月

場所 天白溪（2/27）、滝ノ水緑地（3/5、13、19）、小幡緑地（4/11、12、27、30、5/1、2、3、8、11、19、23）、平和公園（5/5、7、9、12、17）、東谷山（4/25、28、5/7、12）、相生山緑地（3/3、23、29、4/15、16）、猪高緑地（2/17、4/17、19、23、27）

活動回数 34回

延べ参加人数 81人

協働 愛知守山自然の会、NPO法人なごや東山の森づくりの会、名東自然倶楽部

成果 市内14箇所の公園緑地で分布することがわかりました。本種が生育する場所の近くには、ササユリやエンシュウムヨウラン、シュンラン等も見られ、本種が市内における自然度の高い里山林の指標種として、有用であることが確認されました。

表3. 市内公園緑地のカンアオイ類の有無

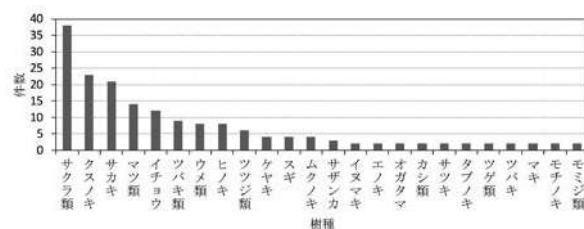
区	緑地名	ヒメカンアオイ/ゼンバサイシン	スズカカンアオイ
守山区	東谷山	○	○
守山区	小幡緑地	○	○
守山区	八竜湿地	○	△植
守山区	才井戸流	×	○
名東区	明德公園	×	×
名東区	猪高緑地	○	×
名東区	牧野ヶ池緑地	○	×
千種区	平和公園	○	○
千種区	天白溪	○	×
千種区	八事裏山	○	×
千種区	名大構内	○	×
天白区	相生山緑地	○	○
緑区	滝ノ水緑地	○	×
緑区	大高緑地	○	×
天白区	島田緑地	○	×

事業③：外来種・郷土種使用の実態に関するアンケート調査

本活動では、市内の生物多様性保全の拠点として重要な神社境内地内での植樹と駆除（樹木伐採）の実態を明らかにするためのアンケート調査を行いました。本年度に昨年度から継続していた分析を終え、その成果は2021年日本造園学会ランドスケープ研究（5号論文集）に掲載予定です。この報告では、その中から、主な成果を報告します。

協働 名古屋産業大学大学生

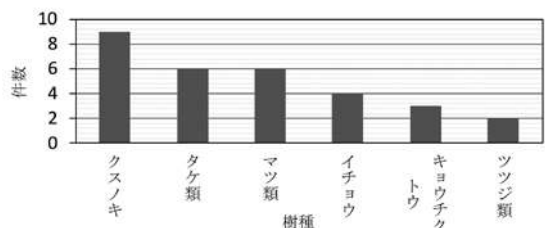
成果 市内神社林で植栽される樹種としては、サクラ類、クスノキ、サカキ、マツ類などが多く（図1）、駆除対象としては、クスノキ、タケ類、マツ類、イチヨウなどが多いことが明らかになりました（図2）。駆除対象の樹木は、市内でも古くから植栽された記録がある樹種で、大径化したため駆除（伐採）されたことが示唆されます。一方で、これらの樹種は植樹の対象にもなっており、過去に植栽した樹木の実生を苗木として再植樹して、神社景観を維持する活動が行われていることがわかりました。



その他1件づつ：アジサイ、アセビ、イスノキ、エゴノキ、カキノキ、カリン、クチナシ、クスギ、サクロ、シイノキ、シキミ、シュロ、タチバナ、タラヨウ、ナギ、ヒサカキ、フジ、ヤマモモ、ユズリハ

*グラフ下枠内は1件づつ挙げられた樹種

図1. 植樹樹種の種類 (長谷川 (2021) より転載)



その他1件づつ：アジサイ、ウメ類、エノキ、カシ類、コナラ、コニファー類、サカキ、サクラ類、タブノキ、ツツジ、ツバキ類、トウカエデ、ニセアカシア、ピラカンサ、フジ、ポプラ、ムクノキ、モッコク、ヤマモモ

*グラフ下枠内は1件づつ挙げられた樹種

図2. 駆除樹種の種類 (長谷川 (2021) より転載)

事業④：巨樹の生育状況調査

名古屋城内には自生と言われるエドヒガンがありますが、その他の記録は作られていません。しかし、千種区及び名東区には、その立地や生育状況から、自生と思われるエドヒガンがいくらか存在しています。本活動では、市内で自生と思われるエドヒガンを対象に、開花期に花の確認、個体サイズの計測を行いました。また、事業①の際に、各緑地の巨樹（胸高直径50cm以上を目安）の個体サイズの計測を行いました。

期間 2020年3月16日

場所 名古屋城、日泰寺、見附公園、明德公園

延べ参加人数 8人

成果

(1) エドヒガンの調査

特に昨年度の事業①で発見された見附公園（千種区）の個体は、その立地や過去の土地利用履歴、土地所有者へのヒアリング情報から、自生である可能性が高いと思われます。また、明德公園内のエドヒガンの巨樹（写真7）も同様に、その立地や生育状況から自生の可能性は否定できません。本調査ではこれら樹木を対象に開花期に花を確認し、個体サイズを記録しました（表4）。

表4. エドヒガンの個体サイズ

サイト名	樹高 (m)	胸高直径 (cm)	樹冠の拡がり (m)			
			北	東	南	西
名古屋城内堀沿い	12.5	51.4	5.2	10.3	6.7	1.5
		48.0				
名古屋城通路側	18.5	N/A	6.3	7.5	7.6	11.6
		46.0				
日泰寺	13.4	41.0	4.4	5.6	13.0	4.4
		63.0				
見附公園	13.7	37.6	5.8	3.7	8.3	6.9
明德公園	16.5	66.5	8.3	7.8	10.3	10.0
		62.5				

※N/A：データなし



写真7. 見附公園のエドヒガン



写真8. エドヒガンの花
花柄に団子状の丸いふくらみがあることが特徴。

(2) 巨樹の記録

事業①の調査において、猪高緑地南部において、胸高直径が約100cmの市内最大級のアラカシ（写真9）が見つかりました（保存樹として登録されているアラカシのうち最も太い個体は胸高直径70cm）。



写真9. 猪高緑地の胸高直径が約100cmあるアラカシの巨樹
地上高1.5m辺りから幹が3つに分かれている。

事業⑤：伐採木の樹幹解析、萌芽調査

平和公園ハンノキ湿地周りや猪高緑地では、大径化したコナラやアベマキがナラ枯れなどの何らかの要因で弱ったことによって倒木の危険があることや、幹割れなどにより上部の枝や幹が枯死し落下してくるといった危険木となっているため、その伐採が進められています。本活動では、大径化した里山樹木が萌芽再生可能かどうかを明らかにするために、伐採木の切り株からの萌芽状況を記録しています。

期間 2020年10月～2021年1月

場所 猪高緑地(10/25、11/23、29、12/13、1/17)

活動回数 5回

延べ参加人数 16人

協働 名東自然倶楽部

成果 猪高緑地内でコナラ、アベマキ、ビワ、リョウブ、アラカシ、ホオノキ、ソヨゴ、ヒサカキ等を対象に伐採木の直径、伐採面の地上高、萌芽枝数、最大萌芽枝の直径などを記録しました。そのうち、大径木の結果においては、コナラは直径64.5cm（伐採面の高さ：45cm）で2本（写真10）、アベマキは直径47.7cm（伐採面の高さ：111cm）で6本の萌芽が確認されました。



写真10. 萌芽再生したコナラ（直径64.5cm）

事業⑥：日常生活圏における生物情報の普及啓発手法の検討

事業①、④の調査結果を整理して、見える化に努めました。本年は、名東区内樹林地調査のリスト及び巨樹リストの作成を行いました。詳しくは資料編に掲載します。

また、千種区の茶屋ヶ坂公園と城山八幡宮では、昨年度の植物リストを区土木事務所や地元保全団体、自然観察指導員等の方々と共有し、保全活動を推進するための現地勉強会を開催しました。茶屋ヶ坂公園は10月11日に開催し24人の参加を得て、城山八幡宮では11月3日に開催し21人の参加を得て、参加者からは、貴重な情報を得られたとのことで好評を得ました。この活動を契機として、地元での保全活動の推進を図っていきます。



写真11. 城山八幡宮における勉強会の様子

植物の分布、希少種の生育実態を明らかにし、その成果の活用を図っていきます。

2021年となりいよいよ協議会の設立10周年を迎えます。2021年度は、次の10年に向けた更なる活動の充実とより効果的な啓発、普及（生物多様性の主流化、SDGsへの貢献）を図っていきます。

(引用文献)

長谷川泰洋. 2021. 都市の神社境内地における植樹と樹木伐採の実態及び植樹の種類. ランドスケープ研究, 85 (5). (印刷中)

今後について

昨年度から、区別及び希少種別に集中的に植物相や植生、および生育状況の実態を明らかにする調査を始めました。その結果、予想を上回る成果を得られています。また、その成果を事業⑥で地域に還元する活動を行い、手ごたえが得られたことは大きな成果でした。

次年度以降も調査対象とする区、希少種を決めて、集中的に調査を行うことで、地域ごとの

なごや生きものの一斉調査2020～バッタ編～

はじめに

「なごや生きものの一斉調査」の目的は、多くの市民の方々に身近な自然や生きものに親しみと関心を持っていただくことです。平成23年から10回目を迎えた今回の一斉調査は、身近な昆虫である「バッタ」を対象としました。

ワーキンググループ

今回の一斉調査では、協議会会員のうち昆虫に詳しい者で構成したワーキンググループ（石原則義、水野利彦、戸田尚希、事務局）で調査方法等を検討しました。

主な活動内容

●実施体制

- 主 催** なごや生物多様性保全活動協議会
(事務局：名古屋市環境局
なごや生物多様性センター内)
- 協 力** 公益財団法人名古屋市みどりの協会
水野 利彦氏（財団法人和名昆虫博物館研究員）
戸田 尚希氏（名城大学昆虫学研究室研究員）

●実施内容

(1) 調査リーダー事前講習会

- 日 程** 9月13日（日）、9月14日（月）
- 場 所** なごや生物多様性センター
- 講 師** 水野 利彦氏、戸田 尚希氏
- 参加人数** のべ72人

(2) 一斉調査

- 日 程** 10月2日（金）、10月3日（土）、
10月4日（日）
- 参加人数** のべ506人
- 調査地点** 41地点

●実施方法

(1) 捕獲

調査地内を歩き、飛び出してくるバッタを捕獲しました。草むらの中で捕虫網を振り回して捕まえるスウィーピングによっても捕獲しました。



図1. リーダー講習会の様子

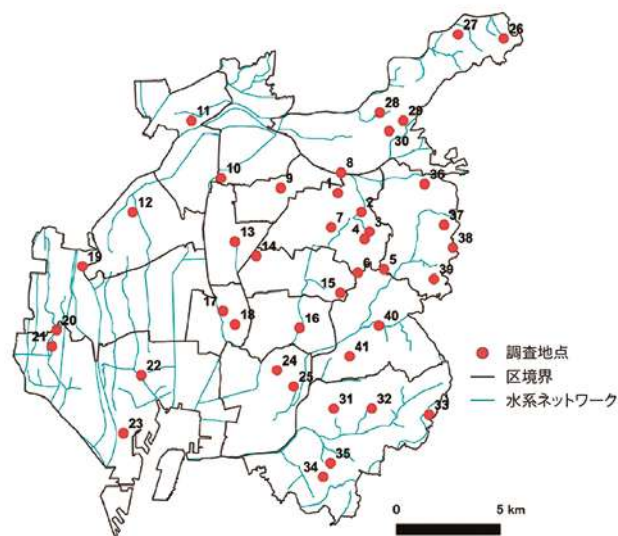


図2. 調査地点

(2) 同定・観察

捕獲したバッタは1個体ずつ資料に基づき同定しました。同定後、リーダーの解説によりバッタを観察し、それぞれの特徴を確認しました。

(3) 再同定

捕獲したバッタはすべてなごや生物多様性センターへ提出してもらい、講師の水野氏と戸田氏により再同定を行い、種を確定しました。



図3. 捕獲の様子



図4. 同定の様子

● 調査結果

(1) 調査結果の概要

今回の調査では、名古屋市内で見つかりそうなバッタで、市民にも同定しやすいもの11種を調査対象としました。41地点で調査した結果、対象外のものを除いて9種832頭のバッタが確認できました。その内訳は表1のとおりです。

オンブバッタは小規模な草地や花壇・家庭菜園でも見つかるバッタで、最も多い34地点で249頭が確認されました。マダラバッタは26地点で、オンブバッタに次いで208頭が確認されました。マダラバッタが好む踏み固められて乾燥した土が露出し草が疎らに生えるという環境が拡大しているものと考えられます。

表1. 調査結果

種 別	個体数	確認地点
オンブバッタ	249	34
ショウリョウバッタ	133	26
ショウリョウバッタモドキ	44	11
ヒロバネヒナバッタ	0	0
ヒナバッタ	20	5
マダラバッタ	208	26
ツマグロバッタ	0	0
イボバッタ	101	26
クルマバッタ	1	1
クルマバッタモドキ	37	9
トノサマバッタ	39	10



図5. オンブバッタ (岡田正哉氏撮影)



図6. マダラバッタ

(川邊透氏撮影 <https://www.insects.jp/konbuntyk.htm>
バッタ・コオロギ・キリギリス図鑑より)

なごや生きもの一斉調査2020～バッタ編～

一方で山地に生息するヒロバネヒナバッタとツマグロバッタは確認できませんでした。半自然草原に生息するクルマバッタも確認できたのは1地点（守山区小幡緑地）のみでした。

(2) 調査結果の考察

○地域別の分布

名古屋市の「生物多様性2050なごや戦略」では、なごやをその成り立ちから「東部（丘陵地）」「中央部（台地）」「西部（沖積平野）」と大きく3つの地域に分けています。今回の調査地点をこの3つの地域にあてはめ、地域別にバッタの種類と個体数を集計すると表2のようになります。

表2. 地域別の調査結果

地域	個体数	種類
東部（丘陵地）	450	9
中央部（台地）	158	8
西部（沖積平野）	224	7

大規模な公園が多く、山地が残っている東部で最も多くの種が確認され、バッタの進出からまだ歴史が浅い西部では種が少ないという結果でした。また、都心部の大部分を含む中央部では、個体数が最も少ないという結果になりました。

○環境（草丈）別の分布

今回の調査ではバッタを捕獲した場所の環境を、そこに生えている草の高さ（草丈）で4種類に分類しました。捕獲されたバッタの個体数を草丈別に集計すると図7のようになります。約70%の個体が膝下あたりまで草が生えている場所で捕獲されました。このような条件の草地が多くなれば、バッタが快適に過ごせる環境が維持できると考えられます。



図7. 草丈別の調査結果

○バッタ自然度

今回の調査で見つかったバッタの種類により、その地点の自然度を表3のように定義し、バッタが生息できる環境がどれほど残っているかを評価してみました。調査地点を「生物多様性2050なごや戦略」の3つの地域に分け、そのバッタ自然度の平均値を算出すると表4のようになりました。東部（丘陵地）と西部（沖積平野）ではバッタ自然度が高い傾向があり、バッタが生息しやすい環境が残っていると考えられます。バッタが生息しやすい場所では植物の遷移が

表3. バッタ自然度

自然度	バッタの種類
—	調査対象のバッタが見つからない
バッタ自然度1	オンブバッタ、マダラバッタ、イボバッタがいる
バッタ自然度2	ヒナバッタ、ショウリョウバッタ、クルマバッタモドキ、トノサマバッタもいる
バッタ自然度3	ショウリョウバッタモドキ、クルマバッタもいる
山の要素がある	ヒロバネヒナバッタ、ツマグロバッタもいる

表4. 地域別のバッタ自然度

	東部（丘陵地）	中央部（台地）	西部（沖積平野）
調査地点数	23	10	7
バッタ自然度 計	53	17	14
バッタ自然度 平均	2.30	1.70	2.00

進行しやすいので、適度に低木を伐採し草はらを維持する必要があります。

また、開発が進んでいる中央部（台地）では、狭い場所でも草が生える環境を積極的に作ればバッタの個体数や種数が増えると考えられます。

(3) 調査当日の様子

今回の調査では、これまでの一斉調査で2番目に多い506人の方に参加していただきました。その約半分が小学生で、親子での参加も多く、「子どもが喜んでいたのでよかった」という感想を多くの方からいただきました。参加いただいた皆さま、ありがとうございました。今後も皆さまに楽しんでいただけるような調査を続けてまいります。



東山の森（へいわの森）



鶴舞公園



興正寺公園



小幡緑地



大高緑地（花木園周辺）



天白川緑道

なごや生物多様性サマースクール2020

はじめに

当協議会では生物多様性を知る第一歩として、小中学生を対象に、子どもたちが参加しやすい夏休みを利用して「なごや生物多様性サマースクール」を開催しています。

「夏休みの宿題 応援します!」をテーマに、子どもたちの夏休みの自由研究の助けとなるよう、協議会会員が講師となり、専門知識を活かした様々な講座を開催。森や川など身近な自然環境に生息・生育する生きものたちに、直接出会えるフィールドワークから、室内でじっくり学ぶ実習まで、幅広い講座を企画しています。

今まで気付かなかったことや、普段見ることができない世界に目を輝かせる子どもたち。わくわくする楽しい活動が貴重な体験や学びにつながり、少しでも生物多様性に関心を持ってもらうきっかけとなるよう心がけています。

毎年、定員をはるかに超える応募があり、夏休みには欠かせないイベントとなっています。

令和2年度の活動記録

開催期間

令和2年8月1日(土)～8月29日(土)

講座数

全11講座

参加者数

延べ189名(同伴者延べ174名)

講師人数

延べ49名



① 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう! ② 外来種の昆虫を捕って駆除しよう ③ 天白川の水源を訪ねてみよう



講師 相生山緑地オアシスの森くらぶ
日時 8月1日(土) 9:50～12:00
会場 相生山緑地オアシスの森(天白区)
定員 10名



講師 なごや外来種を考える会
日時 8月2日(日) 9:30～11:00
会場 猪高緑地(名東区)
定員 20名



講師 名古屋自然観察会
日時 8月2日(日) 9:30～12:00
会場 天白川支流岩藤川上流部(日進市)
定員 20名

④ 竹林調査と水鉄砲作り



講師 花水緑の会(大高竹の会)
日時 8月2日(日) 9:30～12:00
会場 大高緑地(緑区)
定員 20名

⑤ 山崎川の生き物観察会



講師 山崎川グリーンマップ
日時 8月2日(日) 10:00～11:30
会場 山崎川親水公園(瑞穂区)
定員 15名

⑥ 大矢川源流域の生きもの探し



講師 愛知守山自然の会
日時 8月5日(水) 10:00～12:00
会場 大矢川源流域(守山区)
定員 20名

7 チョウの採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 8月8日(土) 9:00~15:30
会場 猪高緑地(名東区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
定員 20名

8 甲虫の採集と標本づくり



講師 名古屋昆虫同好会
日時 8月8日(土) 9:00~15:30
会場 猪高緑地(名東区)
 なごや生物多様性センター(天白区)
定員 20名

9 葉っぱの標本づくり&葉っぱパズルで遊ぼう!



講師 相生山緑地自然観察会
日時 8月23日(日) 10:00~12:00
会場 なごや生物多様性センター(天白区)
定員 15名

10 猪高緑地の水の生き物観察



講師 名東自然倶楽部
日時 8月29日(土) 9:00~11:00
会場 猪高緑地 すり鉢池(名東区)
定員 15名

11 調べてみよう! 川の生きもの



講師 NPO法人日進野菜塾
日時 8月29日(土) 9:45~11:45
会場 岩崎川下流(日進市)
定員 20名



南神池(熱田神宮内)調査

なごや生物多様性センター 野呂 達哉

はじめに

南神池(熱田神宮内)の改修工事で水抜きが行われたのに伴い、2020年4月5日に生物調査を実施した(一部、管理者らが事前に実施)。

調査結果

調査で確認された主な生物

魚類はオオタニシ(名古屋市レッドリスト2020・絶滅危惧Ⅱ類)が確認された。オオタニシは、池内の周囲に一定間隔で立てられた杭の周辺で多数確認された。オオタニシは杭と岸辺の間に潜むことでコイ類などの捕食者から逃れていたものと考えられる。

甲殻類はアメリカザリガニが確認された。

魚類はモツゴ、コイ、ニシキゴイ(品種)、フナ類の一種、ヘラブナ(品種)、ナマズ、ブルーギルが確認された。

カメ類はニホンイシガメ(名古屋市レッドリスト2020・絶滅危惧Ⅱ類)、クサガメ、ミシシッピアカミミガメ、雑種(おそらく、ニホンイシガメとクサガメの雑種)が捕獲された。

まとめ

アメリカザリガニ、ブルーギル、ミシシッピアカミミガメ、カメ類の雑種については南神池から取り除いた。

今回採集したオオタニシを勾玉池に移動させた場合、コイに捕食されてしまう可能性があるため、一時的になごや生物多様性センターで保護した。

管理者の意向により、南神池で採集・捕獲されたモツゴ、コイ、ニシキゴイ、フナ類の一種、ヘラブナ、ナマズについては熱田神宮内の勾玉池に移動させた。

ニホンイシガメについては、メスの成体のみが捕獲された。捕獲した個体は、熱田神宮内の勾玉池に移動させた。

クサガメについては、幼体が一個体捕獲されていることから、南神池で繁殖していると推測される。クサガメは熱田神宮内の北東部にある池に移動させた。

今回の結果を踏まえた上で、オオタニシやニホンイシガメの生息場所として南神池は貴重な場所であったことを報告し、工事後もこれらの生物に配慮してもらえるよう提案したい。



図1. 調査の様子(南神池・熱田神宮内)



図2. オオタニシ(南神池・熱田神宮内)

会員活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員が行う地域活動に対し、その活動の活性化と、それを通じたなごやの生物多様性の保全を目的に、活動支援を行っています。支援内容は以下のとおりです。

- ▶ 調査機材の貸出
- ▶ 講師・専門家等の派遣やそれに伴う会場借上げにかかる費用負担
(調整等は会員が実施、協議会は費用を負担。1件あたり上限30万円相当)
- ▶ 市民生きもの調査員への催事案内(月1回/メール・ファックス)

令和2年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和2年度 活動一覧

実施団体名(敬称略)	活動内容
名古屋昆虫同好会	講演会

上記以外にも、17件の物品の貸出を行いました。

令和2年度 市民調査員への催事案内件数

月	R2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3年 1月	2月	3月
件数	4	3	2	4	3	4	4	3	5	3	2	2

名古屋昆虫同好会特別講演

名古屋昆虫同好会では、毎年1月に会員活動助成金を活用して、外部の有識者の方をお招きし、講演会を開催していますが、本年度は下記の通り特別講演を開催しました。

日 時 2021年1月17日（日）

講 師 昆虫写真家 栗林 慧 氏

タイトル 『小さい命を撮る』

参加者 70名

Zoomによるリモート開催

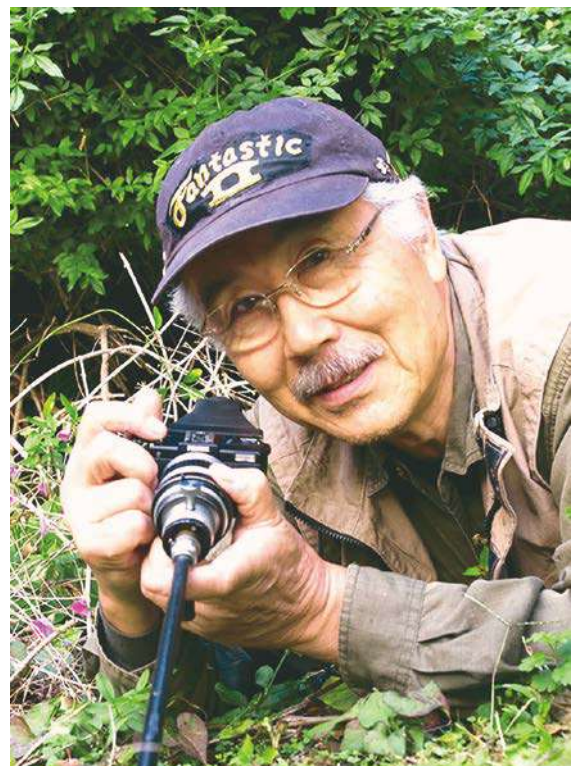
当初は名古屋中小企業振興会館メインホールでの開催を企画していたのですが、新型コロナウイルス非常事態宣言下の開催ということで、急遽やむなくリモート開催としました。

講師の栗林氏はカメラによる超ミクロな撮影とその技法開発の先駆者として有名な方で、科学技術映像祭内閣総理大臣賞、日本写真協会年度賞、科学分野で優れた写真を撮ったカメラマンにおくられ科学写真のノーベル賞と言われていたレナート・ニルソン賞、紫綬褒章など数多くの受賞歴をお持ちで、多くの出版物とマスコミでも取り上げられた方です。

当日は、体毛やしわなども映し出すアリの超拡大写真やそのしぐさ（動画）、ホタルの映像など、数多くの素晴らしい映像を見ることができました。リモート開催ではありましたが、カメラを手に昆虫を追い続けられた50年以上の間に、撮影記録された昆虫の生態写真や動画の中から、氏によって厳選されたそれらは、「常に新鮮に見られるような撮り方を研究して撮影してきた写真」（講演者より）と言われる通り卓越したものでした。驚くべきは今のようない器機が開発される前にご自身で作成した道具を駆使しての撮影だったということです。その写真を拝見しながらの、それに至ったエピソードなどもお伺いでき、開発の裏話として大変興味あるお話でした。

本来であれば、ホールでの7mの大画面で拝

見する予定でしたが、コロナ禍の影響でパソコン（スマホ）での視聴となったことだけは残念でした。ただ参加者からの直後のアンケートからは参加されたほとんどの方がご満足いただけただようで、初めてのリモート開催で、準備にも苦勞を伴いましたが、実施主催者として安堵いたしました。



講演者 栗林 慧 氏

地域活動支援

なごや生物多様性保全活動協議会では、協議会会員以外の地域団体による、なごやの生物多様性の保全を目的とした活動についても、調査機材の貸出を行っております。また、必要に応じて、現場指導や生物の同定などの支援も行っています。

令和2年度は、以下の活動について支援を行いました。

令和2年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
細口池生きもの復活クラブ	細口池の生きもの復活作戦
名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校理科部	山崎川生物調査活動

細口池生きもの復活クラブ活動報告 2020

細口池生きもの復活クラブ 代表 浅井 正明

はじめに

●ツバメのねぐらが復活して3年



活動が8年経過しました。1万羽ともいわれるツバメが戻り、ヨシ原の育成と水面の保持が活動の中心となっています。ヒメガマ、アカメヤナギの除去が進み、池面積の50%

のヨシ原が維持されています。今年7月10日から10月上旬までねぐら入りを確認されました。8月には多くの子どもたちと生きもの調査を行い、同時に浮島型カメワナを設置したところ、3年目にして初めて3匹捕獲しました。ツバメはNHKの取材があり、東海地方と全国に放送されました。



ツバメのねぐら入り観察会

活動結果

●定例活動：毎月第2土曜日 会員数15名

活動日	活動内容
4月11日	ヨシ、ヒメガマ刈取り、清掃14人
5月9日	ヒメガマ、ヤナギ除去、清掃6人
6月13日	雨、ツバメの巣調査2人
7月11日	雨、ツバメねぐら入り・立ち観察6人
8月28日 29日	カメワナ・モンドリの設置、生物調査・解説及び特定外来種除去66人、浮島型カメワナ設置
9月12日	ヒメガマ除去7人
10月10日	雨のため作業中止
11月14日	ヒメガマ・ヤナギ除去、清掃6人
12月12日	ヒメガマ刈取り8人
1月16日	湧水か所の保全
2月13日	枯ヨシ・ヒメガマの刈取り

●随時活動

活動日	活動内容
4月1日～ 月1～2回程度	ヒメガマの除去20人
月2回程度	池内清掃、排水口清掃40人

●生物調査結果：8/28・29に実施、参加者66名

調査はコロナ禍の下で行われました。カメワナ、モンドリを使って捕獲調査をしました。モクズガニ成体14、フナの仲間3、モツゴ多数と在来種はやや増加しました。一方外来生物は、コイ、カダヤシ、ウシガエル、アメリカザリガニが確認されましたが顕著に減少しました。特定外来生物は処分しました。



●8年間で確認された種

分類群	種名
魚類 6種	ドジョウの仲間、フナの仲間、モツゴ、トウヨシノボリ、カダヤシ、コイ
甲殻類 4種	モクズガニ、スジエビ、アメリカザリガニ、ミナミヌマエビ
は虫類 3種	クサガメ、ニホンイシガメ、ミシシッピアカミミガメ
両生類	ウシガエル（幼体多数、成体）
鳥類 23種	バン、オオバン、アオサギ、コサギ、カルガモ、オオヨシキリ、カワセミ、ツバメ、コガモ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カイツブリ、ダイサギ、ヨシゴイ、カワラヒワ、カワウ、クイナ、ヒクイナ、オオジュリン、スズメ、ハシボソガラス、モズ、ムクドリ
昆虫類 10種	ヒメミズカマキリ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、ウスバキトンボ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、クロイトトンボ、アジアイトトンボ

●湧水か所の保全

湧水か所のヨシやヒメガマを除去し、砂浜を復元しました。湧水量は以前と同等に湧出し、水質と湧水量を調査が課題となっています。

まとめ

8年間ヒメガマを除去した結果、ヨシの生育域と水域が増進し、ヨシは成育良好で一方ヒメガマも依然として成長が旺盛でした。水面では水鳥やトンボ類が多く確認することができました。今年ねぐら入りとねぐら立ちを確認し、ツバメのねぐらが定着したことが認識され、NHKが取材した映像とコメントが納得されました。

助成金事業

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の後継者育成を目的とする活動や新たに取り組まれる保全活動を支援することで、次世代の担い手づくりや新たな活動の創出を応援しています。

開始から6年目にあたる令和2年度は、9件の助成を行いました。

令和2年度 活動一覧

実施団体名 (敬称略)	活動内容
地球ハグ倶楽部	みつばちと命のサイクルから学ぶ！ ～BeeHappy∞Project～
葦プロ委員会 (名古屋市立名古屋商業高等学校)	葦のストロー作り
東邦高等学校 科学研究部	東邦高校近隣におけるブルーギル捕獲と 透明標本・樹脂標本の製作
南山高等・中学校男子部 理科部生物班	南山高等・中学校男子部理科部生物班の活動
愛知県立木曾川高等学校 総合実務部	国の天然記念物「木曾川のイタセンパラ」の 保護に繋がる活動
愛知県立一宮高等学校 生物部	タナゴ属の人工的産卵装置の開発 ～絶滅危惧種イタセンパラ保護のために～
愛知県立佐屋高等学校 科学部	愛西市内を中心に用水路に生息する生物調査
豊田市立滝脇小学校	私たちの愛鳥活動-知ろう！滝脇の自然 守ろう！ 私たちの森 広げよう！地域へ-
名城大学附属高等学校 自然科学部	名城大学附属高等学校自然科学部の活動 -庄内川における環境活動

みつばちと命のサイクルから学ぶ！～BeeHappy∞Project～

(地球ハグ倶楽部) 代表 坂部 里咲 副代表 高松 一史
たねとみつばち 土と太陽 白金 丈英

はじめに

大高緑地のニホンミツバチの調査・研究・保護を目的として“みつばち”を通して、自然の命のサイクルを学び、地球環境に対する意識を高める「～BeeHappy∞Project～」を企業や学校に広める活動を目的としています。

活動目的

みつばちは、怖くない女子高生達の想いから始まった「BeeHappy∞Project」は環境指標生物でもあるミツバチと人間、そしてそのライフサイクルに関わる全ての生き物が、幸せに暮らせる為のプロジェクトです。私達は、命が継がれていく日本のために、知る講座、感じる体験、伝えるメディア、守る行動、つながる地域と人の輪を広げます。ニホンミツバチの調査・保護・講座を通して、私たちもミツバチも大きな生態系の一部だと感じられるような活動の輪を広めています。

活動内容

愛知県の都市公園で初めて、ニホンミツバチの巣箱を5基設置、内2基に自然入居した。モニタリング調査・保護活動を実施。都市公園施設管理許可を6年間（令和8年3月31日まで）頂きミツバチの巣箱を教育施設として公園での市民養蜂講座を開催。“みつばち”から命の循環を学ぶ、生態系を守るための活動を地域に広めています。



図1. 自然入居での内検風景（6月20日）

絵本とポスター制作

活動していくなかで、誤った知識が多く正しい知識を知って欲しいと絵本とポスターを制作し後継者育成活動をすることに致しました。

「みつばちのオリジナル絵本を創って学校や図書館でみんなに読んでもらいたい。」

原案・原画制作から印刷会社の選定まで高校生が中心となり制作。印刷メーカー様の協力ですべての商品のバナナペーパーで絵本を作りました。



図2. 巣箱作り風景

まとめ

表1. 参加者実績

イベント内容	開催日	参加者
みつばち夏仕事	6月20日	10人
ビーハウスを作ろう！	7月11日	21人
採蜜体験	9月6日	12人
巣箱づくり	1月23日	15人
合計		58人

ミツバチを通じて環境教育が広まり環境保護への意識が高まった。生命の基盤である土壌と水と環境を守り、命が継がれる持続可能な日本にしていきたい。

表1の通り、コロナ禍の影響で参加者の人数の制限やコロナウイルス対策を十分に考慮して実施した。

葦のストロー作り

葦プロ委員会（名古屋市立名古屋商業高等学校） 高羽 信吾

はじめに

一見、何の役にも立ちそうにない、川辺や干潟に生息する“葦”。しかし、この植物は「水質浄化」と「生物多様性の維持」の2つの効果を発揮しています。こうした葦原を保全するため、葦の繊維を原材料とした布製品の商品化に取り組み、結果的に5種の製品を誕生させるに至ったのですが、平成から令和への改元を契機として、これまでの目標にSDGsの理念を導入し、より多様なゴールを目指して「葦を用いたごみ問題の解決」を新たなテーマとして掲げました。すなわち、これまでは当たり前のようによく用いられてきたポリプロピレン製ストローを、自然素材である葦に置き換えることで、プラスチックごみの排出抑制につながるとの仮説を立て、「葦のストロー」の開発に着手しました。

葦のストローができるまで

開発段階では様々な試行錯誤を繰り返し、その結果、下の図1の製造工程を導き出しました。

さらに、ストローにより高い商品価値を付与することを目的に、ストローの末端に「おみくじ」を刻印するアイデアを思いつきました。これを実現するため、愛知県立名古屋聾学校の皆さんへ“協働”を申し入れ、同校のバーニング・ペンを用いて手書きで刻印しています（図2）。

また、ストローの製造は生活介護施設ヒュッ



図2. おみくじ付き葦のストロー

ゲおがわのもりが、プロモーションと流通チャネルの構築は名古屋商業高校が担当するという分業体制を確立しました。これが本格的に稼働するようになれば、環境保全だけでなく、身体的ハンディを持つ方の社会参画と、わずかながらでも収入をもたらす就労機会の増大も夢ではありません。

まとめ

ストローの材料を変更することでもたらされる抑制効果が、プラスチックごみの全体量から見れば微々たるものであることは承知しています。しかし、身近な日用品から、ごみ問題に目を向ける方が一人でも増えれば、私たちの目標達成に向けた歩みが、わずかながらでも前進するものと確信しています。



図1. 葦ストローの製造工程

東邦高校近隣におけるブルーギル捕獲と透明標本・樹脂標本の製作

(東邦高等学校 科学研究部顧問) 平川 史子

はじめに

当初は「学校近隣におけるブルーギル捕獲と透明標本・樹脂標本の製作」だった。昨年度まで猫ヶ洞池、隅除川で簡単に釣れたブルーギルが今年は1匹も釣れなかった。最後に釣ったのは2020年1月猫ヶ洞池。池干しが終わった4月以降毎月釣りに行ったが釣れることはなかった。矢田川、庄内川でも同様にブルーギルは釣れず。その代わりフナ、モツゴ、カマツカ、ニゴイ、ヨシノボリなどの魚をたくさん見ることができた(下表参照)。

標本製作では透明標本を樹脂に封入するという目標を達成することができた。透明感を保ったまま樹脂に入れるためにはほぼ1年間の試行錯誤を要した。なごや生物多様性センターの皆さまの応援なくしてはできなかつたと思う。

調査結果

矢田川、猫ヶ洞池などでの生き物調査

ブルーギルの勢いはすっかり衰えたようにみえた。猫ヶ洞池では4月～6月にフナ、モツゴ、ヨシノボリの稚魚が岸辺にあふれるほどいた。ブルーギル不在は生物多様性の観点では望ましいのだろうが、標本製作上は猫が洞池のフナ・モツゴたち問題。今は在来の稚魚を飼育し、自然死した個体を標本にしている。



猫が洞池のフナ・モツゴたち

生き物調査記録2020

	隅除川	矢田川	猫が洞池	庄内川大橋の下	小幡緑地	新守山近くの川
1月10日 金			水抜き中 ブルーギル 数匹 フナ、ヨシノボリ 数ヶ房	河川工事 12月の稚魚いない		
4月28日 火			ブルーギル釣れない	オイカワ稚魚 20匹 ヒツギ		
5月12日 水	オイカワ 3匹/カダヤシ エビ 大量		小魚稚魚群 モツゴ約4匹	オイカワ稚魚 20匹 ヒツギ	ザリガニ 4匹	
5月23日 土	オオカワ 1匹 エビ 大量		ヨシノボリ 稚魚20匹 今まで大量捕獲可 モツゴ 2匹 フナ 稚魚 1匹	エビ 10匹 ブルーギル数枚だけ		
6月27日 土	フナ 稚魚 15匹 エビ 1匹 オイカワ 稚魚 10匹 ヤマメ 10匹		ヨシノボリ 稚魚 50匹 今まで大量捕獲可 モツゴ 2匹 フナ 稚魚 1匹			ナマズ 10匹 3匹
7月25日 土			ヨシノボリ 稚魚 20匹 大量にいる モツゴ 10匹			モツゴ 大量 コイ 15匹 フナ 10匹 ヤマメ 2匹
8月3日 土			フナ 2匹 プラウナ(ス) 15匹 エビ 1匹 1匹 1匹 1匹 1匹 ブルーギル 1匹 1匹 1匹 1匹 1匹 (数隻捕獲)			
11月15日 日						オイカワ 20センチ 4匹 オイカワ 稚魚 10匹 サモロ 10匹

透明標本の樹脂封入成功!

2年生の木村と仙誉が1年秋から試行錯誤を繰り返し、4月に成功第1号を完成した。さらに改良しつつある。写真は8月の作品。



透明樹脂標本(ブルーギル)

まとめ

「透明樹脂標本の製作」は製作過程を論文にして投稿、AITサイエンス大賞で優秀賞をいただくことができた。また11月「なごや生物多様性センターまつり」で発表させていただいた。

他部員たちは、「矢田・庄内川をきれにする会」の冊子「庄内川の語り部」が学校に送られてきたことをきっかけに役員小野天下さんを訪問し、会の歴史や有機物を食べるバクテリアのお話を伺った。バクテリアに興味を持った1年生は川に関する研究を始めることになった。研究の具体的なことを学ぶため、「なごや環境科学調査センター」を訪ねたところ、4人の研究員の方が我々のために懇切丁寧に実験について教えてくださいました。まだ方向性は定まらないものの身近な川や生き物を相手に手探りで歩んでいきたいと思う。

今年はコロナ禍のため矢田川イベントや子どもまつりなど行事が中止になったが、環境や生き物と関わる方々とのつながりを経験できたことは貴重だった。今後もみなさまのご指導を頼りに頑張っていきたいと思う。

はじめに

今年度は、コロナ禍による学校閉鎖が3ヶ月も続き、春の活動は全くできなかった。6月から学校は再開されたものの、部活動への制約は厳しく特に宿泊行事はすべて中止となる中、コロナウイルス感染症のピークを避けつつフィールドに出ることができた。また名古屋市立大学の熊澤先生のおかげで、高大連携の取り組みができたことは望外のことである。この場を借りて、深く感謝したい。

活動内容、調査結果、活動の成果など

岐阜県水鳥谷（7月23日）へ生物採取

例年5月に採取するのだが、7月に訪れたのは初めて。カラスアゲハが5匹採れるなど陸生昆虫も豊富な場所だが、写真のように水生昆虫を目的とした。川魚は標本の1～2匹を採取した。ヒルに血を吸われた生徒もいたが、トビケラやカワゲラ、マゴタロウムシなどを持ち帰った。



図1. 水鳥谷の川で採取。

長ノ山湿原（9月19日）へ生物採取

9月には、新城市の長ノ山湿原で、ミズカマキリやタイコウチなどを採取した。学校近くの山崎川での採取が日常の活動である。

新城市の長ノ山湿原にある池での生物採取。ミズカマキリ、タイコウチ、タガメなど、今ではなかなか見ることができない水生昆虫を採

取できた。ヤゴもいろんな種類がとれたが、ヤンマが池の上を自在に滑走する風景とともに見ごたえのあるところ。湿原保全のため、この池も守られているが、近くでは大きなエンジン音が聞こえてくる。いつまでも残しておきたい所の1つ。

名市大の熊澤先生と交流（12月14日）

この交流会に先立ち、オンライン講義を名市大主催で開催（9月12日）した。渋川浩一先生（ふじのくに地球環境史ミュージアム教授）から『スコップで探る未知の世界—波打ち際で爆発的に進化したハゼたち—』の講演を聞くことができた。写真は交流の後、飼育しているカメなどを見ていただき、種の特定のため遺伝子を調べていただけることになった。

サマーフェスでの講座（7月19日）

名古屋大谷高校にて講座を開講した。文化祭ではここ数年、環境問題に取り組んでおり、深海と地球環境の関連をテーマに発表した。煮干しの解剖から、海洋での食物連鎖を明らかにして底生生物などもよく調べて発表した。事前に共同学習を重ね、それをプレゼンする経験は貴重だ。特に他流試合は文化部でも大切と思う。

まとめ

生物と環境を学ぶことは、とても大切な未来創りと考えている。その点では、基盤となる「植物」を学ぶ必要があるが、入部してくる生徒で希望することは皆無である。しかし、どんな昆虫や魚もその生態を詳しく学べば、必ず植物に突き当たる。その深さに触れさせたいと思っている。

また、以前も書いたが、生物オタクの量産では学校教育の使命は果たせない。フィールドに出ることと同じように他校の生徒と学び合う機会が必要であり、今回の名市大との連携は極めて貴重なものとなった。今後の活動をグレードアップする大きなきっかけにしていきたい。

国の天然記念物「木曽川のイタセンパラ」の保護に繋がる活動

(愛知県立木曽川高等学校 総合実務部顧問) 松澤 奈奈

はじめに

イタセンパラは、国の天然記念物と絶滅危惧IA類に指定されている淡水魚である。地域の宝としてイタセンパラを保護するために、地域と連携して活動をおこなってきた。木曽川に生息する地域の宝を守るために、総合実務部が活動を始めて7年目になった。イタセンパラは取り扱いに制限があるため、高校生だからこそできる活動を模索しなければならない。保護に繋がる活動として、「活動の3本柱」を実施している。

1 調査・研究と学習会への参加

2 イタセンパラの飼育・広報活動

イタセンパラの認知度調査、かるた大会等

3 生息地の保全活動



図1. 除草清掃活動

活動内容と成果

本年度は平成29年度に制作したイタセンパラかるたのリニューアルに力を入れた。未来を担う子どもたちに向けた広報活動として制作をした。これまでのかるたの評価を振り返り、子どもたちに伝わりやすい内容に改良することになった。以下が改良のポイントである。

- 1 よりわかりやすく伝わりやすいものにする
- 2 正しい情報を載せる
- 3 イタセンパラだけでなく、関わりの深いことも学べるようにする

改良をおこなう中で、令和2年度木曽川高校の1年生に向けたアンケートを実施した。地元の代表的な河川である木曽川を身近に感じてい

る人が約60%だった。その一方で無関心である人は約40%もいた。そこで、イタセンパラに関連する札を増やしたり、環境保全を呼びかける札を増やしたりした。

え	えらのよこ 黒いもようが 特徴だ
す	砂地へり ワンドの数が へっちゃった
た	大切な 地球の環境 守ろうよ
よ	ヨシノボリ えらにくつつく 貝の赤ちゃん

図2. 新かるたの読み札 例

「よ」の札は、イタセンパラが産卵に使用する二枚貝について言及している。また、絵札には木曽川の橋梁を描くなど親しみやすさを出した。

今年度は、平成29年度から実施していた小学校における「イタセンパラかるた大会」の開催を見送った。その代わりに、改良したかるたをキットとして配布した。イタセンパラの学習をおこなっている小学校2校に配布をし、環境学習に役立てていただくことができた。また、子どもたちがかるたを家庭に持ち帰って、活用してもらうことが期待できる。



図3. かるたの制作

まとめ

イタセンパラの保護の必要性を伝えるために、イタセンパラかるたを改良することができた。子どもたちや本校生徒の意見をもとに、より親しみやすいかるたになったと考えられる。今年度は制限の中で活動を工夫しなければならなかったが、家庭でも学ぶことができる「イタセンパラかるたキット」を配布することで、広報活動を充実させることができた。

タナゴ属の人工産卵装置の開発～絶滅危惧種イタセンパラ保護のために～

(愛知県立一宮高等学校 生物部顧問) 原 いずみ

はじめに

本校生物部は平成28年度より、イタセンパラの飼育・広報活動を始めた。飼育する中で、「イタセンパラの繁殖」について興味を持ち、平成30年度より「安全に産卵できる産卵床の開発」というテーマで研究を開始した。

イタセンパラ等のタナゴ属は淡水生二枚貝に産卵する特徴がある。しかし、生息環境の減少やヌートリア等の外来生物による捕食によって、二枚貝が減少しており、これに伴って、少ない二枚貝にタナゴ属の魚が大量に卵を産み付けてしまう「過産卵」が発生している。タナゴ属の魚の卵は二枚貝のエラに入るため、「過産卵」が生じると、二枚貝は呼吸困難で死亡してしまい、更に減少が進んでしまう。産卵床が失われれば、イタセンパラも減少し、「共倒れ」になってしまうことを本校生徒は問題視した。

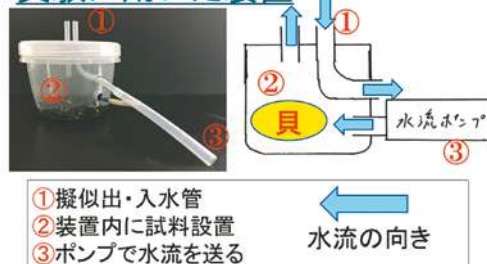
そこで、イタセンパラを絶滅の危機から救うために、また、二枚貝とイタセンパラをはじめとしたタナゴ属の魚が共倒れになってしまうのを防ぐために、人工産卵装置を開発・研究し、保護活動に貢献しようと尽力している。

活動内容と研究結果

イタセンパラが産卵するまでに行う一連の産卵行動を段階に分けると、「①雄が産卵床を発見、縄張りとする」「②雌を産卵床に誘導する」「③雌が産卵床を認識し、出水管へ産卵する」「④雄が出水管に向かって放精する（→貝の中で受精し、稚魚として孵化する）」の4段階がある。

産卵床が雄に認識されなければ産卵行動が行われないと考えた生徒たちは、まず、疑似出水管・入水管を取り付けた産卵装置を作成した。相模川ふれあい科学館では既にミヤコタナゴで人工産卵装置 (<https://sagamigawa-fureai.com/diary/20190625-4913/>) による産卵が確認されていたため、制作者の波多野 順様に連絡を取り、参考にしながら、より安価に、簡単な仕組みで産卵装置が開発できないか検討した(図1)。

実験に用いた装置



- ① 疑似出・入水管
 - ② 装置内に試料設置
 - ③ ポンプで水流を送る
- 水流の向き ←

図1. 人工産卵装置 (左) と模式図 (右)

②のところに実物のイシガイや、イシガイの飼育水を含ませたスポンジを入れると、雄は興味を示して疑似出水管をつついたり(図2)、装置の周辺で他の雄を追い払う縄張り行動や雌の産卵管をつついたりする様子などが見られた。



図2. カネヒラの雄が疑似出水管をつつく様子 (赤丸)

また、高濃度の精子を含ませたスポンジを入れると、雌雄ともに興奮状態になった。

今後の課題は、実際に産卵させるためにはどのような条件が必要かを模索することである。水流の量やリズムに注目し、ポンプの改良を検討している。また、産卵行動を誘発させる要素について引き続き検討していきたい。

※ イタセンパラは絶滅危惧種で実験に使用できないため、一連の実験は同じタナゴ属で繁殖行動も方法も類似しているカネヒラやタイリクバラタナゴで実験を行っている。

まとめ

本研究は、イタセンパラの個体数減少を防ぐだけでなく、その産卵床となるイシガイの個体数減少をも防ぐことのできるものである。今後も、粘り強くアイデアを出し、実験・観察を繰り返すことを通して、「研究」という面から種の保全活動について考えさせていきたい。

愛西市内を中心に用水路に生息する生物調査

(愛知県立佐屋高等学校 科学部顧問) 武田 誠司

はじめに

本校が位置する愛知県愛西市は、木曾三川の豊かな水の恵みを受ける水田地帯である。そして西側に接する木曾川、東側に接する日光川水系の善田川に囲まれ、それぞれの河川から東西に多くの用水路が存在する。

用水路には、年間を通して通水状態であるものと季節によって通水する水路がある。また、排水のみを行う悪水と呼ばれる水路もある。

今回、本校科学部は用水路に生息する魚類保護の基礎資料を得るため、年間を通して通水がある市内の水路を任意で選び、夏季と冬季における用水路内に生息する魚類相の変動を調査した。

調査方法及び結果

●調査した用水路

調査した用水路は以下の3水路である。

- 調査区1 佐屋高校南部土水路(愛西市東條町)
- 調査区2 佐屋高校圃場北側コンクリート水路(愛西市東條町)
- 調査区3 愛西市落合町地内コンクリート水路

●調査方法

調査は水路内を1区間10メートルに仕切り連続5区間の魚類を捕獲し、種類の同定、体長を計測した。調査区の水質調査も同時に実施した。調査には、滋賀県立大学環境科学部准教授の皆川明子博士、(国研)農研機構農村工学研究部門水環境ユニット長の竹村武士博士の助言をいただきながら調査を実施した。

●調査結果

調査結果は以下のとおりとなった(表1)。調査区2、3は善田川に接続する関係上、生息する魚種が比較的似ていると考えられる。6、7月の調査ではフナ、モツゴ、タイリクバラタナゴの順に多く確認できた。フナやモツゴは、仔魚、稚魚の確認のみであった。これらは春、親魚が用水路へ侵入し産卵、誕生したものと思わ

れる。外来種はタイリクバラタナゴ以外にカダヤシも多数確認した。メダカは1匹しか確認できなかった。8月の調査では、調査区2で6月に多く確認したフナやモツゴが激減した。この時期は善田川に降下の時期と考えられる。

水質調査では以下の通りとなった(表2)。

表1 採捕魚体等個体一覧

科名	種名	6月調査	6月調査	7月調査	8月調査	8月調査
		調査区1	調査区2	調査区3	調査区1	調査区2
コイ科	ギンブナ	1	93	24		2
	モツゴ		20	8		9
	モロコ		4			
	オイカワ			4		
	タイリクバラタナゴ		6	3		
ドジョウ科	ドジョウ	12	3	7	8	
ナマズ科	ナマズ		2		1	
メダカ科	メダカ			1		
カダヤシ科	カダヤシ		16	65	15	97
アマガエル科	ツチガエル			1		
	オタマジャクシ	2				
ハゼ科	ヨシノボリ類	2		1	21	2
	魚類小計	17	144	114	45	110
テナガエビ科	ヌマエビ	5			21	1
	スジエビ	4	255		20	114
	アメリカザリガニ	1			6	
	合計	10	255	0	47	115

表2 調査区の水質調査

	調査区1	調査区2	調査区3
COD	8	8	8
NH4	0.5	0.2	1.5
NO3	0.02	0.2	0.2
NO2	0.2	0.005	0.01
PO4	0.02	0.5	0.2
水温	29.0	29.5	

※表1

調査区3は2度目の調査が炎天下のため、実施を中止。

※表2

調査は2回目の時(8月)に実施。調査区3の水温は計測未実施。



写真1 7月調査



写真2 8月調査

まとめ

今回、この報告では夏季に調査を行った結果を書いたが、冬季も同様に実施している。今後も定期的に調査を続け、用水路内の生物保全に向けた基礎資料を得たい。調査結果を、地域の子どもたちに紹介もしていきたいと考えている。

私たちの愛鳥活動—知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ—

(豊田市立滝脇小学校 校長) 石黒 英男

はじめに

本校は豊田市松平地区の南、標高242mの恵まれた自然環境の中にある、全校35名の小規模校である。本校の愛鳥活動の歴史は長く、昭和41年愛知県から「愛鳥モデル校」に指定されたことをきっかけに、「知る活動」「守る活動」「広げる活動」の3本柱を立てて、愛鳥活動に取り組んできた。この3本柱をもとに「知ろう！滝脇の自然 守ろう！私たちの森 広げよう！地域へ」をテーマにして、“多様な野生生物が集う滝脇の森づくり”を目指した愛鳥活動に地域住民の協力を得ながら全校で取り組んでいる。

活動と成果

1 知る活動

(1) 愛鳥検定【姿見検定・鳴き声検定】

滝脇の森にすむ野鳥に親しみ、興味・関心を高めるため、二つの検定を実施している。一つ目は、写真を見て名前を答える「姿見検定」。二つ目は「鳴き声検定」である。「鳴き声検定」は、季節ごとの鳴き声の特徴を識別できるよう“さえずり”と“地鳴き”に分け、初夏と冬に実施している。

(2) 探鳥会を通して知る

西三河野鳥の会の方を講師として招き、年3回の探鳥会を実施している。学区を4コースに分けて、生息する野鳥について詳しく観察し、季節によって変化する鳥たちの営みを理解する最も重要な機会としている。



夏鳥探鳥会の様子

2 守る活動

(1) 「野鳥の森」整備

本校の学習林として代々の卒業生が整備し活用してきた「野鳥の森」は、様々な種類の樹木が生い茂り、緑豊かな森になってきた。しかし、30～40年の間に木々が成長し、密生した暗いエリアも多くなっている。子どもたちは、「野鳥の

森」を野鳥が餌を獲ったり、営巣したりするのに最適な場所にしたいと考え、2009年度より本格的に森の整備に取り組んできた。保護者や卒業生が集まった「つばさと根っこの会」の方々が年に4回、休日を利用して整備に協力してくださっていることが大きな支えになっている。

(2) 二畳ヶ滝クリーン活動

二畳ヶ滝は、学校から1.5kmほど西に位置する郡界川の景勝地である。数多くの野鳥や野生動物が生息しており、本校と地域とで保護活動に取り組んでいる。

(3) 給餌活動

毎年12月～3月の4か月間、校内の給餌台に餌を置き、1・2年生が餌の少ない時期の野鳥保護活動に取り組んでいる。

3 広げる活動

(1) ツバメ営巣調査

2012年度から、中学年が総合的な学習の時間を利用して校区の「ツバメ営巣調査」に取り組んでいる。

(2) 営巣調査

3年生以上の子どもが一人一個巣箱を作り、野鳥が巣作りを始める12月末までに野鳥の森や学校周辺の林内に設置している。



営巣調査の様子

まとめ

55年におよぶ愛鳥活動は子どもたちに自信と誇りをもたせ、大切な活動は継続し、さらによりよいものへと改善することで、内容はより一層深化されている。

今後も、滝脇の自然環境を多様な生物にとってすみやすい環境にするために、地域の一員として滝脇の豊かな自然を守り、広める活動を展開していきたい。

名城大学附属高等学校自然科学部の活動－庄内川における環境活動

(名城大学附属高等学校 自然科学部) 吉川 靖浩

はじめに

本校の北を流れる一級河川の庄内川はBOD類型がDである。この現状を生徒が正しく認識し、当事者意識を持ち、自分達のできることを考える観点から川の環境活動を実施した。持続可能な世界を実現するための活動が求められている中、身の回りの環境について正しく現状を認識し、環境保全意識を持ちながら行動できる人材を育成することを目的とした。部員117名のうち飼育班35名とメディスン班17名が行った。

実践報告

水生生物の捕獲調査

現状の川に住む生物から川の状態を知ることを目的として飼育班を中心に行った。調査を通じて、生息する生物についてのみならず捕獲する手法を身につけ、生物の行動を体験的に知ることができる。主な調査は庄内川の川底の砂質の異なる2地点を抽出し、タモ網によるすくい取り法を用いて月に1度の頻度で行った。採集後はその場で採集した生物の同定と記録を行った(図1)。生徒の中には魚類などに詳しくない者もいたが、上級生からの指導等により、多様な生物の見分け方やその生態的な特徴について学ぶことができた。また生物の採集技能に関しても年度を通して少しずつ上達し、生物の行動を予測して採集することができるようになった。ウナギ等が捕獲できると喜ぶ姿が印象的だった。



図1. 同定作業の様子

水質調査

水生生物の捕獲調査による経年変化の原因や川の状態を多角的に知るために、メディスン班が水質調査を行った。環境コンサルティング会社から昨年度にアドバイスを受け、まずは水質調査の基本として水生生物の捕獲調査と同じ2地点について、pHの測定を月に1度の頻度で行った。できるだけ誤差が生じにくいpHの測定を行うために、川の水をクーラーボックスに入れて実験室へ運び、繰り返し測定する手順を学ぶことで、科学的に川の状態を知る方法を身につけることができた。

なごや生物多様性ユースひろばでの発表

これらの活動の成果を11月1日になごや生物多様性ユースひろばで発表した(図2)。オンライン発表のためリアルタイムで意見をいただくことはできなかったが、発表した生徒達は初めての発表に緊張しながらも楽しく参加できた。



図2. 発表の様子

まとめ

COVID-19の影響により、年度当初は何も行えず、例年行ってきた川の清掃活動も中止とし、計画通りに進めることはできなかった。一方で生徒は少ない時間の中で何ができるのかを考え、密度の濃い活動につながったことで積極的な学習へとつながった。今後もこの活動を続けながら身の回りの環境について正しく現状を認識し、環境保全意識を持ちながら行動できる人材を育成していきたい。

相生山緑地自然観察会

団体の目的・主な活動内容

- 目的
自然観察を通して、自然に親しみ、自然のしくみを学び、自然保護・保全の大切さを伝え守ることを目的とする。
- 活動
 - ・観察会
 - ・調査・保全・保護活動
 - ・ガイドブック・冊子などの企画・執筆
 - ・なごや生物多様性センター、天白区役所、他パートナーシップ事業
 - ・他団体との情報交換など



△ヒメボタル (オス)

令和2年度の活動について

- 5/15 (金) そっと観察しよう～ヒメボタル = コロナ禍による中止 = 連携：天白もり・フォーラム
- 5/17 (日) ヒメボタルを観察しよう = コロナ禍による中止 = 主催：天白生涯学習センター
- 8/23 (日) 葉っぱの標本づくり&葉っぱパズルで遊ぼう！ 主催：なごや生物多様性保全活動協議会
- 10/3 (土)、10/4 (日) 「なごや生きもの一斉調査2020～バッタ調査編～」 主催：なごや生物多様性保全活動協議会
- 10/17 (土) チョウやカマキリをさがそう！
旅をするチョウ“アサギマダラ”に出会えるかも！ = 雨天中止 = 連携：天白もり・フォーラム

活動団体の紹介

主な活動場所 相生山緑地オアシスの森 (名古屋市天白区)

相生山緑地自然観察会

携帯電話：080-9110-3330 E-mail：kimiko.k@chorus.ocn.ne.jp ブログ：http://ngyaioi.blogspot.jp/ (休止中)

■例会の予定：定例観察その他 ヒメボタル、アサギマダラなどをテーマに観察会実施

「あいちの海」グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

目の前にある三河湾と伊勢湾という素晴らしい海の魅力を町の人や地元の人に知ってもらうこと。

令和2年度の活動について

- ① 4月初旬 南知多町聖崎・長谷崎のウミウシ調査開始 (夜間調査も含む)
- ② 5月中旬 佐久島弁天島での生物調査開始。夜間調査を含め、2021年3月まで続行
- ③ 6月8日 (月) 南知多町羽豆岬での師崎小学校の磯の観察会が中止になった。スタッフで磯の調査を実行。
- ④ 5月・6月 「おうちでチリメンモンスターをさがせ！」を実施。郵送で材料と資料を送り、返送してもらって添削。
- ⑤ 6月12・13日 大井漁協所属の底引き漁師丹羽洋一さんから、漁の廃棄物「三河湾の底生生物」をいただく。大阪湾で絶滅したニュウトウタテジマウミウシ、愛知県発確認のホンシタウミウシなどを確認。
- ⑥ 6月20日 (土) クサフグ産卵観察会を実施。人を多く集めないために、当会のH.P.上でのみの告知にとどまった。
- ⑦ 8月8日 (土) 大井漁港内で、ウミホタル観察会とアカテガニ産卵観察会を実施。
- ⑧ 11月16日 (月) 丹羽さんの底引き船に乗船し、三河湾の海底の底生生物の調査。

今年度は、コロナパンデミックの中で、ほとんどのイベントが中止。例年になく海辺には人が集まっているにもかかわらず、密を避けるために参加者を多く集められないというジレンマの中で1年を過ごしました。ただ、唯一よかったことは、人が集まらない生物調査は、続けられたことです。



大阪湾では絶滅したニュウトウタテジマウミウシ
左は、人気のアオウミウシとシロウミウシ。上左のキイロハシタウミウシと右のハナサキイバラウミウシは、愛知県初確認

活動団体の紹介

主な活動場所 三河湾 南知多町・名古屋市

「あいちの海」グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp ウェブサイト：http://www1.m1.mediacat.ne.jp/aichisea/

■例会の予定：不定期 (ウェブサイトを確認下さい)

愛知守山自然の会

団体の目的・主な活動内容

2004年から守山区の小幡緑地本園を拠り所として、より良い自然環境の保全と保護を目的に ①一般参加者向けの自然観察会の実施 ②せせらぎ湿地の保全・保護 ③マメナシなど希少生物の保全 ④研修や各種イベントの参加など、楽しみながら、活動をしているボランティア団体です。

全国トンボ市民サミット、県内の湿地サミット、三重県桑名市多度町八壺谷でのマメナシ保全などに参加しています。

日常的には、守山自然ふれあいスクール実行委員会、なごやの森づくりパートナーシップ連絡会、なごや生物多様性保全活動協議会の行事に積極的に参加しています。

令和2年度の活動について

- 4月：マメナシの樹勢調査（小幡緑地）
- 4月：カンアオイの調査
- 7月：絶滅危惧種の調査（ノカンゾウなど）
- 9月：チョウの自主研修会
- 9月：三重県桑名市多度町八壺谷マメナシ保全交流
- 10月：バッタの一斉調査名古屋市内41箇所（小幡緑地にて）
- 10月：コケの自主研修会
- 12月：蛭池のマメナシを守る会、小幡緑地のマメナシの保全状況見学



▲マメナシ樹勢調査（4月）



▲コケの自主研修会（10月）

活動団体の紹介

主な活動場所 小幡緑地本園内 せせらぎ湿地・マメナシ自生地

愛知守山自然の会

TEL/FAX：(052)711-3087 E-mail：norimameobata@yahoo.co.jp

■例会の予定

【自然観察会】毎月第2土曜日 10：00～11：45（小幡緑地本園トンボの時計台前 9：45集合）

【保全活動日】毎月第2水曜日・第4日曜日 10：00～12：00（小幡緑地本園内せせらぎ湿地・マメナシ自生地）

雨池ホタルの会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市守山区御膳洞（ごぜんぼら）にある名古屋市立大森北小学校と道路を挟んだ隣に、ため池と公園が一緒になった名古屋市内で1000番目に整備された「雨池（あまいけ）公園」があります。平成10年5月末、会員の1人が雨池の外周道路を犬と散歩中に偶然ホタルを見つけました。その後、多くの人々が輝くように光る自然の神秘に心を動かされ、雨池周辺のホタル生息地の保全に立ち上がりました。

「守山自然ふれあいスクール」検討部会にスタッフ参加して、多くの人に雨池公園の自然の素晴らしさを理解してもらい、一緒に守ってもらおうと思っています。その他、桜並木やマメナシの保全活動、公園周辺のゴミ拾い、池の浮遊物の撤去、草刈り、花壇作りなど、豊かな自然環境が育まれるように活動しています。

令和2年度の活動について

- 毎月第1金曜日午後8時から1時間ほど、大森交番前に集まって雨池公園と地域の防犯パトロールを行いました。
- 毎月第2及び第4土曜日は雨池公園周辺の清掃活動、「春の小川」の雑草除去と花壇の手入れを行いました。さらに秋から冬にかけてはヒメボタル生息地の雑草や木の枝を刈り取り、幼虫の生育を促しました。
- 3月に予定していた学区子ども会連合会や大森北小学校PTAと共催の「もちつき大会」は中止となりました。
- 例年5月20日前後に予定していた「ヒメボタル観察会」も中止になりました。しかし会員有志による観察はピークの前後に5回ほど行い、数多くの飛翔を見ることができました。これまであまり見られなかった場所での生育が確認できたことが収穫でした。
- 8月後半に行う予定の「夏だ！元気にあそぼう会」（魚釣り、虫取り、スイカ割りなど）も残念ながら中止になりました。



△夏だ！元気にあそぼう

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市立大森北小学校の学校隣接公園である雨池公園周辺

雨池ホタルの会

TEL：(052)798-2764 E-mail：tymmoka@gmail.com

■例会の予定：毎月第2及び第4土曜日、午前10時から

大高緑地湿地の会

団体の目的・主な活動内容

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得るための話し合いをしました。2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入りました。

令和2年度の活動について

活動テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」を実現するために年間活動内容（右表）を決めて、毎月第二日曜日9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きをメインに行っています。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないため、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。それ以外では、外来種のアメリカザリガニ・ウシガエルの駆除及びトンボのヤゴ調査と保護を行っています。



【主な活動内容】

1月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
2月	コモウセンゴケの丘の落ち葉掻きと刈り込み
3月	湿地上部・誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	たまり池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	里山植物群落の草刈りと落ち葉掻き
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

活動団体の紹介 主な活動場所 大高緑地内花木園

大高緑地湿地の会 (代表：大主順一)

TEL：(052)413-4435 E-mail：yoka1115@violet.plala.or.jp

■例会の予定：無し

尾張サンショウウオ研究会

団体の目的・主な活動内容

名古屋市内のカスミサンショウウオの水辺環境の整備と保全。この地方のカスミサンショウウオの保全について調査と協力体制をつくる。また情報の共有をする。カスミサンショウウオ以外にも、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルの保全にも取り組んでいる。

令和2年度の活動について

繁殖シーズン前に産卵地の整備と、産卵期を過ぎたあたりに一斉調査を行なった。一斉調査ができない地域は各地で行なっている方々と情報共有し、名古屋市内のカスミサンショウウオの生息状況の把握に努めた。さらに、危機的な産卵地の個体群に関しては、幼生を一時的に人工下で飼育し、上陸直前で元の場所へ戻す活動も試みた。その他、危機的な状況にあるアズマヒキガエルやニホンアカガエルの産卵状況も把握し、遺伝的多様性の把握も視野に入れながら調査を行なった。

活動人数約9人



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市全域

尾張サンショウウオ研究会

TEL/FAX：(052)781-2595 (瀧川正子)

E-mail：fwie6142@nifty.com (藤谷武史)

takikawa-m@mtg.biglobe.ne.jp (瀧川正子)

■例会の予定：不定期

雑木林研究会

団体の目的・主な活動内容

◆目的

人間と自然のよりよい関係が模索されている中、雑木林（里山林）を一つのモデルとして取り上げ、フィールドをめぐりながらその役割を解明し、今目的価値を探索することによって、両者の新たな共生関係を見出す。そして、かつての役割を失い、放置されつつある雑木林の新たな活用法を探る。

◆主な活動内容

オープンセミナー、研究会、フィールドワーク、研修ツアー、協働参画活動など

◆これまでの主な活動テーマ

生物多様性環境としての雑木林（里山林保全技術）、子どもと雑木林（雑木林の教育力・木育）、アートと雑木林（雑木林の創造力・グリーンウッドワーク）、公園空間としての雑木林、ヒーリング空間としての雑木林（雑木林の治癒力）、住民参加・協働の場としての雑木林、里山保全活動と市民講座、里山型公園緑地のマネジメント、里山林と木質バイオマスエネルギー、里山林の水源涵養機能と雨水利用、里山林と木工芸・民芸、雑木林と竹林の管理・利用・竹芸など



△里山保全講座 岡崎市ちせいの里螢流の森公園・里山ワークショップ (2020/10/4)



△里山保全講座 日進市北高上緑地・里山保全実践講座 (2020/10/17・12/5・2021/1/23)



△里山保全講座 春日井市高森山公園・フォレストサポーター養成講座 (2020/10/11・11/1・12/13・2021/1/10)

令和2年度の活動について

- オープンセミナー・研修ツアー・・・中止
- フィールドワーク 「アチェメックの森ワークショップ」あいち小児保健医療総合センター内樹林地・・・通年中止
- 里山保全講座「岡崎市ちせいの里螢流の森・里山ワークショップ (2020/10/4) / 日進市北高上緑地・里山保全実践講座 (2020/10/17・12/5・2021/1/23) / 春日井市高森山公園・フォレストサポーター養成講座 (2020/10/11・11/1・12/13・2021/1/10) / 長久手市木望の森・ワークショップ (2020/9/15) など

活動団体の紹介 主な活動場所 特定の活動場所を持たない

雑木林研究会

TEL/FAX：(052) 262-3181 E-mail：k-mayumi@aurora.ocn.ne.jp ウェブサイト：なし
定例幹事会：毎月第1月曜日 午後7時より（現在休止）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

団体の目的・主な活動内容

滝ノ水緑地は、名古屋市緑区にあり、約4.4haの雑木林の中に、小さなため池と湿地があります。この地域が市街化される前の原風景を残す貴重な場所です。

私たちは、1997年に「滝ノ水緑地公園愛護会」として活動を始めました。2010年からは、「滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会」となり、緑のパートナーとして、名古屋市と協定を結びました。2011年には、滝ノ水緑地維持管理計画を作成して、滝ノ水緑地の植生および生態系を維持・再生するための活動をしています。

令和2年度の活動について

〈定例活動〉

- 湿地：除草、笹刈り、湿地植物の保護と再生、日照確保のための除伐など
- 樹林地：おもに常緑樹の除伐、しがらみづくり、落葉かき、枯れ木の処理など
- 池：アメリカザリガニの捕獲、池に溜まる落葉の回収など

〈イベント〉

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響で、市民の方を対象にしたイベントはすべて中止になりました。

〈調査〉

池干し後に爆発的に増えたアメリカザリガニを減らすため、3年間にわたって捕獲した記録をまとめました。

〈その他〉

湿地の保全活動について知識と経験の豊富な方に定例活動日に来ていただき、作業の実践を学んでいます。



△緑地の恵みを用いて松飾りを作りました

活動団体の紹介 主な活動場所 滝ノ水緑地（緑区）

滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会

TEL：070-2639-6686 FAX：(052) 895-8628 E-mail：sumicco.g1601@gmail.com
■例会の予定：毎月第3日曜日 9：00～12：00（11月～3月は、10：00～12：00）（変更することがあります）

地球ハグ倶楽部

団体の目的・主な活動内容

【目的】

全ての生命をはぐくむ自然の中で、親子で遊ぶ。
「ハグ+コミュニケーション=ハグニケーション」という、ハグするようなあたたかなコミュニケーションを伝え広げる。自然体験を通して、まずは一番大切な自分自身、家族、お友達、自然とつながり元気になる。持続可能な社会のために、自分と家族とみんなと自然を大切にできる子供たちを育む。身近なつながりから世界を良くしていくことを目的としています。

【活動の3本柱】

- ・自然の恵みをとって食べる“美味しい”体験
- ・自然の素材で作って遊ぶ“楽しい”体験
- ・自然の神秘を五感で感じる“美しい”体験

【育みたい3つの力】

■自分を信じる力 ■大切な人を愛する力 ■自分と地球をハグできる力



令和2年度の活動について

- 3月／「BeeHappy ∞ Project」みつばちの巣箱設置 キックオフ
- 5月／「BeeHappy ∞ Project」愛知県の公園許可を得て活動開始
- 4月～3月／なごや環境大学 前・後期（なごや環境大学）
- 6月～1月／みつばちと命のサイクル講座開設
- 6月～2月／みつばちの絵本と普及活動用ポスター制作

活動団体の紹介

主な活動場所 愛知県中心

地球ハグ倶楽部

連絡はメールにてお願い致します。 E-mail : info@chikyu-hug.club

ウェブサイト : <https://chikyu-hug.club/>

■例会の予定：不定期（ホームページを参照）

中部蜘蛛懇談会

団体の目的・主な活動内容

- 目的：クモ類の採集、観察、調査、研究など
- 創設：1969年
- 会員数：83名
- 会誌「蜘蛛」年1回発行
- 通信誌「まどい」年3回発行
- 総会・研究発表会・懇親会：毎年2月11日（建国記念の日）
- 観察会（年4回以上）合宿（年1回）

令和2年度の活動について

（事業年度：4月～翌年3月）

○主な活動

- ・総会・研究発表会・懇親会（2月11日、今年度はZoomによる遠隔会議）
- ・観察会（4回とも中止。非公式に少人数で集まり）
- ・夏休みこども観察会（中止）
- ・合宿（中止）
※三重クモ談話会および関西クモ研究会と合同で実施計画
- ・ブース展示
環境デーなごや2020（今年度は出展中止）



▲研究発表会（2月11日@Zoom）



▲キシノウエトタゲモの巣穴の扉（興正寺にて）

活動団体の紹介

中部蜘蛛懇談会

E-mail : mail@ckumo.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://ckumo.sakura.ne.jp/> 《[中部蜘蛛懇談会] で検索》

○入会：子どもから研究者までどなたでも歓迎

○観察会の参加：会員以外でも参加自由・無料

（開催日はウェブサイトに掲載）

中志段味の自然を次世代に伝える会

団体の目的・主な活動内容

才井戸流流域は将来『才井戸流湧水自然公園』（仮称）として今の自然をそのまま生かしながら生き物たちに触れられる公園になります。田んぼ跡の湧水ポイントから出る水と全域から染み出す水が、この流域の生き物たちを支えています。澄み切った川には「川モズク」が、河岸段丘の境目には「沢蟹」が生息しています。これらの自然環境保全とそこに生きる生物たちの繁殖を助けてやれるよう、湧き出る水と吹き上がる砂・河岸段丘の境目から染み出る水を大切に生かし、保全を実証しながら次世代へ永続的に継承するのが、私たち「伝える会」の活動です。

令和2年度の活動について

蟹原湿地の管理方法を見つけた事は、大きな収穫です。希少植物の分布に沿った5つのエリアを麻ひもで分けて、刈る順番のサイクルを作りながら、その年分の区域刈りを行なう。それによって希少植物の観察もできるし、繁殖管理もできる。本年、ここでもモニターリング路と子供らの入れる散策路づくりを始めました。

200mに及ぶ三ヶ月湿地の管理を、徐々に始めています。今までは、上段脇に連なる竹藪の中を人が通りやすくして、空間を確保するだけの整備作業を行なって来ましたが、今年度最下西端から、ここを埋めている藤根・枯れ木・倒竹を片づける作業に取り掛かりました。

自然公園全体の2/3は湿地です。手助けの要る、手こずりながらの活動が続きます。



▲宮前湧水

▲スズカカンアオイ

活動団体の紹介 主な活動場所 才井戸流全流域

中志段味の自然を次世代に伝える会

TEL : 080-6968-2327 (深田) E-mail : f-jin@yc5.so-net.ne.jp

■例会の予定 : 定例打合せ会 / 毎月第3土曜日 15:00~17:00

定例作業日 / 毎月第1土曜日 朝一番~11:00 他随時

なごや外来種を考える会

団体の目的・主な活動内容

2010年から名古屋市と周辺の地域で活動しています。「名古屋地域の健全な生態系を守る」ことが活動目的です。活動内容は「外来種の調査・駆除・啓発・情報発信」です。他との協働も積極的に行います。

令和2年度の活動について

5月~6月 協議会「オオキンケイギク部会の猪高緑地駆除活動」に携わる予定でしたが、新型コロナ対策のため、一般市民の参加募集は行わず、スタッフだけで抜き取り作業を行いました。

7月にも、猪高緑地で「外来生物を捕る会」「外来生物を食べる会」を行う予定でしたが、調理室が確保できず、2つとも中止になりました。

一方で野外だけで完結するサマースクール外来昆虫駆除の活動は8月に行うことができました。目当ての外来昆虫はキマダラカメムシだけで12匹駆除できました。外来種以外にも子供は大喜びで昆虫採集していました。みんな家に閉じこもっていたので外出したかったのですね。

また9月~10月に外来種のムネアカハラビロカマキリの分布調査を名東区内の公園16か所で行いました。今年は昆虫全般があまり見られず、ムネアカハラビロカマキリは1匹も見当たりませんでした。

同時期に海の外来種調査もやっております。目的はチチュウカイミドリガニやムラサキガイなどです。堀川、天白川、中川運河、荒子川、庄内川を目視とD型ネットで探したのですが、残念ながら確認できませんでした。

1月「トウネズミモチの駆除実験」の予定もコロナ第3波がひどくなったため中止にしました。昨年は表皮をむいたところに塩水を含ませた脱脂綿をガムテープで巻きつける「綿塩巻き法」を試行した結果はすべて枯死させられたので、今後も続けて実験していくつもりです。



▲キマダラカメムシの駆除

▲堀川で外来種探索

活動団体の紹介 会員募集中!

主な活動場所 その都度検討

なごや外来種を考える会

TEL : 090-8867-9725 FAX : (0561)62-5510 E-mail : nonaka@kato-ken.co.jp

ウェブサイト : <http://nagorai.org/> 活動ブログ : <http://blog.goo.ne.jp/nagorai>

■例会の予定 : 不定期

「なごや環境大学」実行委員会

団体の目的・主な活動内容

なごや環境大学は、市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働でつくる、環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目指しています。

令和2年度の活動について

令和2年度は、コロナ禍でも環境活動を停滞させないようにオンラインの手法を取り入れて主催事業を開催しました。

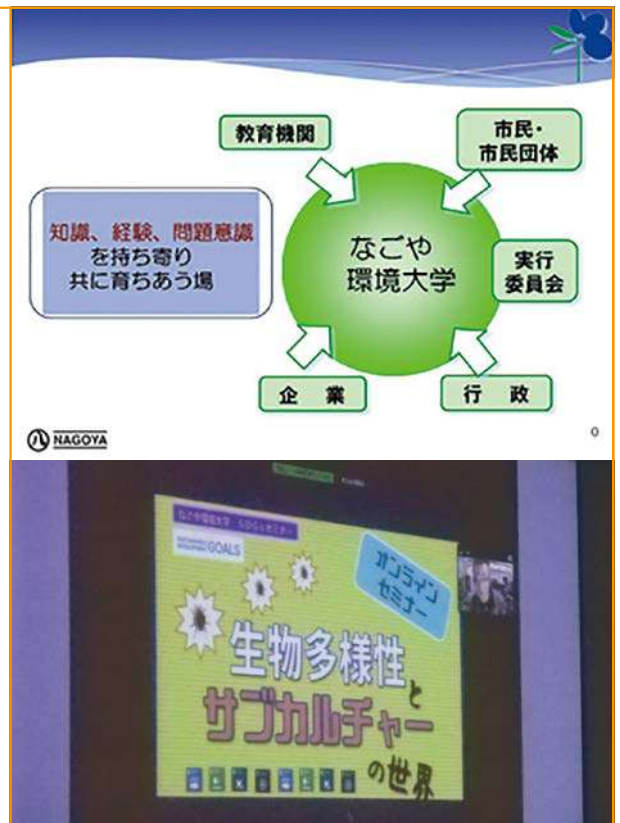
「生物多様性とサブカルチャーの世界」では、五箇公一氏を講師に迎え、生物多様性という観点からSFなどのサブカルチャーを取り上げ、生物との共存の大切さを読み解いてSDGsへとつなげていくオンラインセミナーを実施しました。

また、昨年度に引き続き、SDGsをキーワードにした「環境白書から実践へ2020～SDGs17の目標 その先へ！～」では、「環境白書」を元に、日本や世界の現状を学びつつ、SDGsへの取り組み方や、アフターコロナも踏まえたサステイナブル社会について話し合いました。

今後も、分野・主体・世代を超えた交流の場や、それぞれの主体が持つ知識や経験をつなぎ合わせる場などを創り出し、人づくり・人の輪づくりをすすめていきます。

〈令和2年度の主な主催事業〉

- ・「生物多様性とサブカルチャーの世界」
- ・「環境白書から実践へ2020～SDGs17の目標 その先へ！～」
- ・「SDGsオンラインセミナー 2030年の先をみつめる人々」
- ・SDGsに向けての協働型のしくみづくりに関する自治体ミーティング



活動団体の紹介 主な活動場所 まちじゅうがキャンパス

「なごや環境大学」実行委員会

TEL/FAX：(052) 223-1223 E-mail：jimu@n-kd.jp ウェブサイト：https://www.n-kd.jp

公益財団法人名古屋港緑地保全協会

団体の目的・主な活動内容

当協会は、豊かで快適な港湾環境を創出するため、名古屋港の臨港地区内及びその周辺の緑化を推進し、適切な環境保全に努め、名古屋港の発展と親しまれる港づくりに寄与することを目的に、緑化に関する調査や研究、緑化に関する思想の普及啓発、緑にふれあう機会と場を提供する事業などを行っています。

また、名古屋港の臨港緑地のうち16の施設を指定管理者として管理運営しており、維持管理で発生する刈草や剪定枝を原料に堆肥を製造し、臨港緑地の花木の育成に利用するなどの「緑のリサイクル」を実践するとともに、環境に配慮した循環型の緑地管理に努めています。

令和2年度の活動について

- ・花の名前当てクイズ
- ・富浜緑地わくわく体験教室
- ・緑地見学会
- ・園芸講習会「クリスマスの寄せ植えづくり」
- ・緑の講演会「外来生物と里山保全」
- ・刈草、剪定枝を原料とした堆肥の製造
- ・堆肥の無償配布
- ・伐採木無償配布（燃料として）



活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋港の臨港緑地

公益財団法人名古屋港緑地保全協会

TEL：(052) 659-0880 FAX：(052) 659-0628 Email：info@npgpa.jp
ウェブサイト：http://www.npgpa.jp/

名古屋昆虫同好会

団体の目的・主な活動内容

この地球には様々な生物が暮らしています。その中で種数の半分以上を占める昆虫は、その生活様式をそれぞれの棲息場所の環境に適応させて、様々に進化を遂げてきました。様々な昆虫がいることを知ること、それらの昆虫が多様な生活をしていることを知ることなどは、私たちが自然を理解することの一つの入り口になります。そのような昆虫に興味を持った人々が集まった会が名古屋昆虫同好会です。

戦後間もない1949年に創立され、小学生から社会人、リタイア組みなど、地元名古屋を中心に、全国の約270名の虫好きが入会しており、東海地方を中心とした全国の虫情報（データ・生態等）が掲載される会誌「佳香蝶」と、会員情報やよもやま虫談義などを掲載する連絡誌「NAPI NEWS」を、それぞれ年4回発行しています。

令和2年度の活動について

- ・「佳香蝶」「NAPI NEWS」を、年4回3ヶ月ごとに発行。
- ・1月第3日曜日 年次総会の開催
- ・1月と10月を除く毎月第二土曜日（原則）月例会実施
- ・10月第2日曜日 虫供養（千種区桃巖寺）実施
- ・4月ギフチョウ観察会 in 岐阜県中津川市
- ・7月採集会 in 中部地方の適地
- ・子供採集調査会 in なごや圏周辺
- ★コロナ禍のため変更あり

活動団体の紹介

名古屋昆虫同好会（会長：間野隆裕）

TEL：090-9924-3518 E-mail：pterophoridae@c.vodafone.ne.jp

ウェブサイト：<http://nagoyakondo.com/>

活動場所：毎月の例会と総会は名古屋市千種区吹上の中小企業振興会館（通称吹上ホールのある会館）4階で、情報交換や名前調べ会などの例会を実施しています。



△シンポジウム



△夏の採集会

名古屋産業大学 長谷川研究室

団体の目的・主な活動内容

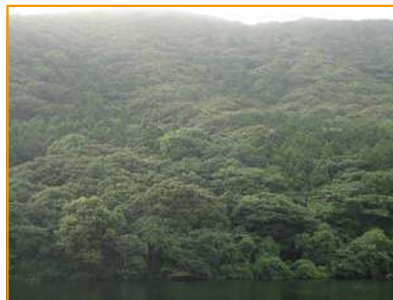
身近にある自然環境の生物多様性を高めると共に、より生態系サービス（自然からの様々な恵み）が豊かな地域社会を作るための方法を探求しています。

研究室のゼミだけでなく、エコレク部等の部活・サークル活動とも連携して、Web図鑑の作成、魅力的な散策ルートの開発、生物多様性に関するゲーム開発などを行っています。

令和2年度の活動について

里山や社叢などの伝統的緑地や都市緑地、都市公園を対象に、生物多様性、生態系サービスの実態把握とその評価手法の研究を行っています。

- ・東海地方の社叢調査
- ・中部地方における菌従属栄養植物の生育環境調査
- ・尾張旭市内主要緑地の動植物調査
- ・名古屋市内公園緑地の植物相、植生調査及び保全活用状況の調査
- ・瀬戸市内重要生態系の保全活動支援、植物調査



希少種等の生育環境の解明

絶滅危惧種が多いラン類、菌従属栄養植物

ササユリ・東海丘陵要素など
公園・緑地の保全・活用の調査

都市公園

巨樹、神社などの歴史的緑地・緑

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市、尾張旭市、瀬戸市、東海地方の重要生態系

名古屋産業大学 長谷川研究室

TEL：(0561)55-5101（大学代表）

FAX：(0561)52-0515（大学代表）

E-mail：y-hasegawa@nagoya-su.ac.jp

名古屋自然観察会

団体の目的・主な活動内容

名古屋自然観察会（正式名は、愛知県自然観察指導員連絡協議会名古屋支部）は、主に名古屋市内在住または在勤している自然観察指導員（財）日本自然保護協会による認定資格者）によって1982年に結成されました。現在の会員数は約100名です。主な活動場所は名古屋市内です。本会は、発足以来、身近な自然に親しみ、自然のしくみを理解し、自然を守るための自然観察会やそれに伴う環境保全活動などを実施しております。近年では、これらの活動と並行しながら、名古屋市環境局などと協力しながら、環境教育等の様々な活動を行っています。



▲なごや自然教室（旧田口線を歩く）

令和2年度の活動について

- ①市内11箇所の緑地や公園などでその自然の特色を生かした自然観察会やネイチャ・フィーリングなどの特色ある自然観察会を実施しました。
- ②子供の自然体験と健全な発育を促すための“なごや自然教室”を2回実施しました。
- ③名古屋市やその近郊の身近な自然にふれるために、8月になごや生物多様性センター主催の「サマースクール」を実施しました。
- ④名古屋国際会議場で実施された「国連生物多様性の10年」に関連した事業「あいち・なごや生物多様性EXPO」（1月）に参加し、ブース出展しました。
- ⑤名古屋市内の幼稚園や保育園、小学校などへ環境サポーターを派遣し、名古屋市環境局のエコキッズ事業に協力しました。
- ⑥会員のスキルアップを目的とした研修会を1回実施しました。
- ⑦愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催する様々な事業に参加・協力しました。
- ⑧機関紙「なんじゃもんじゃ通信」を6回発行しました。
- ⑨ホームページなどを通じて情報発信しました。

活動団体の紹介

主な活動場所 市内の緑地や公園

名古屋自然観察会

TEL：(052)782-2663 FAX：(052)781-8127 E-mail：takilin@sf.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www.nagoyashizen.net/>

■例会の予定：例会は実施していません（役員会は偶数月の第3日曜日）。

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

団体の目的・主な活動内容

ヒメボタルを絆として、温かい心のつながりが広がるのが願いです。1975年にお堀電車の駅員だった竹内氏が、ヒメボタルの大発生を発見し、その後専門家の指導のもと保護活動をされていました。氏ご逝去後、家族・知人等で受け継ぎ、その輪が縦や横に広がっています。ホタル発光の時期は、毎晩ホタルの数を数えたり、人々をご案内したりしています。「外堀は空堀で、ヒメボタルは陸生」「都会の真ん中のお城にヒメボタルが自然発生していることは大変貴重であること」等正しい情報発信をするため、ブース出展やステージ発表・お話し会等を行っています。専門家の方のご指導を受けて調査も行います。市と外堀の草刈り等管理方法を相談したり、清掃も行ったりしています。歌や絵本を作る・写真を撮る等、一人一人が自分にできることで活動をしています。



▲活動自粛の看板（外堀本町橋上）

令和2年度の活動について

- 本年度は、コロナウイルス感染防止のため、北土木事務所さんと相談の上、自粛しながらの活動でした。
- 例年は、ホタル発光の時期、毎晩23時頃～2時頃、ホタルの数を数え毎日HPにUP、人々のご案内をしていましたが、緊急事態宣言が発令されていたため、HPでの公表はやめ、人々へのパンフレット配布もやめました。→パンフレットは行政等へ郵送して本年度の現状をお伝えしました。
- マスク等による広報はお断りし、お話し会等も自粛しました。
- しかし、現地へは例年通り4月～6月上旬深夜メンバーの一部が出かけて、安全確認とホタルのカウントを行い、貴重なデータを残すことができました。
- 本年度は、5月2日初見・5月27日がピーク・6月6日が最終でした。ピークの頭数は2500頭ほど。全体としては例年より多めとなりました。
- 広報を全くしてなくても、見学者はホタルのピークに合わせて来ていました。美しく力強く優しいヒメボタルの光は、人から人へと口伝えできちんと伝わっていました。「受け継ぐ者たち」というのは、こうしたここに来られた皆さん一人一人であると思いました。正しいこと、気持ちのよいことが伝わっていくといいなと思いました。
- 例年の清掃活動も、北土木事務所さんと相談の上、今回は中止としました。
- 「なごや生物多様性センターまつり」はウェブ開催でしたので、そちらで参加させていただきました。
- リニア中央新幹線開通に関して、外堀内にて、北土木事務所さん、J R東海さん等とヒメボタル生息地保護について打ち合わせをさせていただきました。

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋城外堀（外堀通沿）

名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち

TEL/FAX：なし E-mail：meijo_himebotaru_kanbu@googlegroups.com

ウェブサイト：<https://sotobori.amebaownd.com/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

団体の目的・主な活動内容

名古屋市立大学では、2009年度末に、生物多様性に関して多様な研究を行うとともに、啓発活動を継続的に行う研究センターを設立しました。本研究センターでは、「生物分類」「生物進化」「生物地理」「生態適応」「遺伝子資源の探索」「希少種の保全」など幅広いテーマで、生物多様性の理解と生態系の保全を目指して研究を進めています。また、生物の学名を遺伝子から特定できるシステムを作ろうという国際的取り組み（DNA バーコーディング）に携わり、東海地方の動植物や東南アジアの魚類など、様々な生物の標本とDNAデータを収集するとともに、それらの進化、分類、生物地理の研究を行っています。御興味をお持ちの方はどうぞ見学に来てください。

令和2年度の活動について

多くの方々のご協力のもとに、東海地方を中心に貝類・昆虫類などの標本収集を行いました。これらの標本からミトコンドリアDNAの塩基配列決定を行い、系統解析を行いました。その成果は、いくつかの論文にまとめられました。さらに、学外の共同研究者とともに、名古屋市及びその近郊のカエル類の遺伝的多様性を詳しく解明しました。アウトリーチ活動では、身近な魚類（ハゼ類）に関する高校生対象のサイエンスカフェをオンラインで実施しました。また3月には、環境局なごや生物多様性センターと共催で、「なごや生物多様性シンポジウム～みんなでつなぐ生物多様性の未来～」を実施予定です。

活動団体の紹介

名古屋市立大学大学院理学研究科附属生物多様性研究センター

TEL : (052) 872-5851 E-mail : biodiv@nsc.nagoya-cu.ac.jp

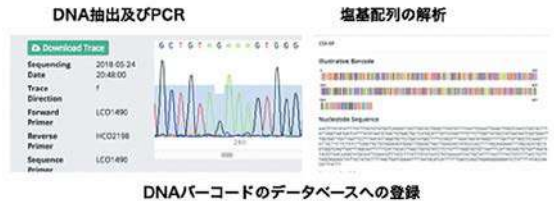
ウェブサイト : <http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/biodiv/>

■例会の予定 : なし

- 様々な資料の収集と保存



- DNAバーコードの解析



なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

団体の目的・主な活動内容

名古屋の自然を守り、育て、ふれあい、学び、後世に継承することをめざし、加盟団体間の連絡を円滑にし、お互いに協力しあうことにより、各団体の活性化を図る目的で設立されました。

令和2年度の活動について

- 令和2年度の加盟団体数 森づくりを楽しむ29団体が加盟
 - ・定例会の開催 : 偶数月 第2金曜日18:30~定例会の開催
奇数月 第2金曜日18:30~幹事会の開催
 - ・フィールド訪問の開催
加盟団体の活動日に訪問し、研修会を兼ね課題の共有化を図る目的で、11月は、中志段味の自然を次世代に伝える会、12月は、なごや竹和会への現地訪問が行われました。特に、なごや竹和会には4団体が参加し、情報交換会までおこなわれました。
 - ・テーマ協議
定例会では、活動時に発生した収穫物などの取扱いの発成品について協議しました。
 - ・スキルアップ研修会の開催
2月は、庄内緑地公園 グリーンプラザ2階講習室にて、武田 明正氏（三重大学名誉教授）をお招きし、生物多様性保全に配慮した「森づくり - 森林植生から考える - を学びました。
 - ・広報の充実
森づくりを広報するために、森づくりのパネル2枚を作りました。
 - ・その他 市主催の森づくり講座を4個所の緑地で実施しました。



活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市内の緑地

なごやの森づくりパートナーシップ連絡会

TEL/FAX : (052) 262-3181 (事務局)

ウェブサイト : <http://www.nga.or.jp/partnership/introduction.html>

《「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」で検索》

■例会の予定 : 偶数月 第2金曜日18:30~定例会の開催、奇数月 第2金曜日18:30~幹事会の開催

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会



● 団体の目的・主な活動内容

「東山の森」に親しみながら森を学び、森の保全と再生を目指して森づくりをしています。

いのち輝く森を次世代につなげようと活動をしています。

雑木林・湿地・竹林の手入れ、森の観察・案内、森の調査、ソバ班、畑班、田んぼ班など里山くらし体験活動も盛んです。

● 令和2年度の活動について

定期的な活動は、定例森づくり活動と12の班活動で雑木林・湿地・竹林の保全活動、子ども森づくり活動、田んぼ、畑、調査活動などです。両生類の生息地保全を視野に入れて、広範囲の湿地再生活動もしています。

また、協働・連携活動として生物多様性保全活動協議会の東山新池の移入種スイレンの除去活動と水草の希少種の保全活動、森の希少種保全と調査活動、生き物一斉調査。日本野鳥の会愛知県支部と猫ヶ洞池のヨシ原再生・ゴミ拾いワークショップを実施しました。 活動日数 270回/年、活動人数延べ約4,200人

● 活動団体の紹介 主な活動場所 なごや東山の森

NPO 法人 なごや東山の森づくりの会

TEL/FAX : (052) 781-2595 E-mail : nh_morizukuri@higashiyama-mori.sakura.ne.jp

ウェブサイト : <http://www.higashiyama-mori.sakura.ne.jp/>

【定例森づくり】 活動参加費 : 会員/無料・一般/200円

活動日時 : 毎月第1日曜日 9:30~12:30

集合場所 : 毎回異なります

活動場所 : 奇数月/いのちの森・うるおいの森 (東山公園南部)

偶数月/くらしの森 (平和公園南部)

NPO 法人 日進野菜塾

● 団体の目的・主な活動内容

都市農地の遊休地の活用方法を考えることから始まり、生きものとの共生、自然を守る観点から有機農法を選び、日本の伝統文化を学び、命が繋がっていく営みを知り、命の大切さを知る、そんな場にしたいと考え、農体験教室、生きもの観察教室を行っています。子供の食育、環境教育、都市住民の農への理解、自然体験の楽しさ・魅力を日々発信続ける場となることを希望しています。又、地域の子育てNPO、介護・障がい者団体等との農を生かした連携も進めています。栽培は、農薬や化成肥料を使いません。

● 令和2年度の活動について

- ① 農業体験農園 (指導付き農園) 毎週土曜日 (講義と実践)
- ② ダンボール生ゴミコンポスト講座、落ち葉たい肥講座
- ③ 生きもの観察コース (子ども生きもの調査隊)
- ④ なごや環境大学共育講座「都会人の農体験塾」(前期・後期)
- ⑤ 日進・げんき朝市の事務局
- ⑥ その他、田植え、稲刈り、ハーブ教室、ミカン剪定収穫、イモ掘り、餅つきなど開催。



▲生きもの豊かな田んぼ体験



▲農業体験農園「あせだくコース」

● 活動団体の紹介 主な活動場所 日進市本郷

NPO 法人 日進野菜塾

TEL : 090-5443-1518 FAX : (052) 934-7207 E-mail : info@n-yasaijuku.com

ウェブサイト : <http://n-yasaijuku.com/>

■例会の予定 : 日曜日 9:00~12:00

日本カメ自然誌研究会

団体の目的・主な活動内容

本会は、カメの自然誌に関心のある研究者・ナチュラルリスト・愛好家の交流・親睦・情報交換を目的とし、1998年に発足した研究会です。生息環境の破壊の影響で減少しつつある自然（野生）のカメと人が良い関係を保つためにはどうすればよいのかをみんなで考えています。交流のため年に一度「日本カメ会議」を開催しています。また在来のカメの保護や外来のカメの防除に関する、行政などの機関からの調査の要請も請け負っています。なごや生物多様性保全活動協議会が発行した「ミシシippアカミミガメ防除マニュアル」は本研究会が監修しました。

令和2年度の活動について

本年度は活動できなかった。



▲「堀川のワニガメ」

活動団体の紹介 主な活動場所 その都度検討

日本カメ自然誌研究会

住所：〒471-8532 豊田市大池町汐取1 愛知学泉大学矢部研究室室内（事務局）

TEL/FAX：(0565)35-8373 E-mail：kame@gakusen.ac.jp

ウェブサイト：<http://www1.m1.mediakat.ne.jp/chelonian-1998/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

日本野鳥の会愛知県支部

団体の目的・主な活動内容

日本野鳥の会は1934年（昭和9年）に創設され、全国に90の支部があります。愛知県支部は本部創設の4年後1938年に中京支部として誕生し今年で77年を迎えます。活動の柱として野鳥を通して自然の大切さ、楽しさを知ってもらう普及活動、野鳥とその生息域を守るための保護活動、生態や生息数等を調べる調査活動があります。

そのうち普及活動の一つ、探鳥会は一般の方に野鳥観察の楽しさを知ってもらうため、会員以外の方も参加できます。また、参加の予約や費用も必要ありませんのでお気軽にご参加下さい。探鳥会の詳細はHP又は毎週中日新聞、朝日新聞に掲載しています。詳しくは事務所（末尾参照）へ問い合わせして下さい。

令和2年度の活動について

本年度に限らず次のような活動を継続して行っています。

1) 普及活動

探鳥会：年間140回以上 参加者はおよそ2600名

愛知県弥富野鳥園野鳥観察指導、バードウィーク写真展開催、小学校における環境学習の手伝い

2) 保護・調査研究活動

愛知県定点調査（県内22箇所所で40年以上継続中）、カワウ調査8箇所、サギ調査（東名阪弥富・蟹江インターチェンジ）、コアジサシ調査 県内全域、木曾岬干拓地猛禽類調査



▲探鳥会の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 各地

日本野鳥の会愛知県支部

住所：〒462-0844 名古屋市北区清水五丁目10-8 グリーンフェロー3A

TEL/FAX：(052)912-9531 E-mail：front@wbsj-aichi.org ウェブサイト：<http://wbsj-aichi.org>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）

花水緑の会

団体の目的・主な活動内容

2002年「花水緑の公園通り」と命名した公園を結ぶ道路を花一杯にするまちづくり運動としてスタートし、公園予定地を開墾して種から育てる花づくりに挑戦する会として発足。緑区内19か所で、「花と緑」をキーワードにしたまちづくり・緑づくりのグループです。

令和2年度の活動について

各部会に分かれて独自に活動中。

【定期活動】

- ・春の種まき（3月末から4月） マリーゴールドなど。ポット移植（5月）
- ・初夏の花苗植え込み（6月） 街路樹植えマス・公園花壇など
- ・秋の種まき（9月） パンジー・ノースポールなど。ポット移植（10月）
- ・秋冬の花苗植え込み（11・12月）

【年間を通しての活動】

各部会担当街路樹植えマス・公園花壇などの清掃・除草・水遣り等の維持管理。大高緑地の竹林・雑木林の保全・整備と竹炭づくり・ササユリ自生地の保全活動。

【イベントなどの参加】

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で中止になったイベントが多く、対策ができるもののみ実施した。

緑区内小学校に花苗配布・扇川緑道交流会・なごや生きもの一斉調査2020・なごや生物多様性サマースクール2020・大高緑地（大高竹の会）・鳴子中央公園（鳴子きずなの会）でのイベント



△竹林調査



△ビートルベット落ち葉かき

活動団体の紹介

主な活動場所 こもれび広場・大高緑地・扇川公園・通曲公園・扇川緑道・白土中央公園坊主山公園・上山公園・滝ノ水緑地公園・清水山・鳴子中央公園・なるぱく・水広下・梨の木公園・左京山・亀が洞

花水緑の会

TEL：(052)625-3878

FAX：(052)623-8191（緑区区役所地域力推進室）

E-mail：a6253871@midori.city.nagoya.lg.jp

■例会の予定：不定期

隼人池を美しくする会

団体の目的・主な活動内容

域住民に愛される公園にしたいと、活動をスタート。公園や池の清掃や除草などの手入れ、池に流入する雨水や湧水の汚れの除去などを定期的に行っている。平成21年には名古屋ため池生物多様性保全協議会と協働で、市民とともに隼人池で池干しを行った。池干しでとれた外来の魚やカメ等を取り除いた。

令和2年度の活動について

地域の憩いの場として、隼人池の自然をみんなで守り育てたいと考え、日々取り組んでいる。

①定例活動

公園・池の清掃を定期的に行っている。

②その他活動

防災訓練他、年に数回あり。



▲隼人池の生きものを観察する子どもたち



▲防災訓練の炊き出し

活動団体の紹介

隼人池を美しくする会

TEL：090-4468-0500（代表：加藤昌平）

特定非営利活動法人 藤前干潟を守る会



団体の目的・主な活動内容

藤前干潟の保全ならびに干潟環境の重要性についての啓発をすすめ、さらに広く伊勢・三河湾流域圏の環境再生・持続可能な社会実現をめざす。

令和2年度の活動について

- 主催事業
「干潟の学校」※規模を縮小して実施
「ガタレンジャー養成講座」※今年度は中止
「ガタレンジャーJr.」※今年度は中止
「藤前フォーラム」※今年度は中止
環境省・名古屋市等との共催事業
- 各種団体・学校等からの依頼による体感学習
- 環境イベント等への出展
- 環境省の委託による「稲永ビジターセンター」「藤前活動センター」の運営等

今年度は3月～5月まで一般向けの活動は休止しており、6月以降感染拡大防止の配慮をしながらの活動を行いました。例年に比べてかなり活動内容は少なくなっています。

活動団体の紹介 主な活動場所 藤前干潟周辺

特定非営利活動法人藤前干潟を守る会

TEL：080-5157-2002 FAX：なし E-mail：info@fujimae.org

ウェブサイト：<http://www.fujimae.org>

■例会の予定：理事会毎月1回（不定期）・総会年1回

三河淡水生物ネットワーク



▲スナヤツメ調査（水辺の生きもの部会）

団体の目的・主な活動内容

2008年2月に設立し、愛知県を中心とした爬虫両生類、魚類、貝類、水生昆虫類などの淡水生物とそれに関わる鳥類などの生物、ならびに、河川に関わる大学や水族館・博物館、行政などの関係者や研究者（アマチュアを含む）によって構成されたネットワークグループです。「研究者間の情報交換と交流の場の創出」、「水辺生態系保全に向けた、正確なデータの収集と提言」、「市民への啓蒙と情報の発信」、「次世代の研究者育成」を目的に、年4回の会合では専門家による話題提供のほか、情報や資料の交換、標本の同定や各々の関わる事業への相互協力など。フィールドでは調査による水生生物相の把握と同時に、希少生物や外来生物の生息データの収集・蓄積。また、より多くの方に、楽しく気軽に生き物や水辺環境に関心を持って頂けるよう、水族館や博物館への展示協力、観察会やシンポジウムの講師、研究発表、研究会誌や博物館館報への投稿など、広く情報を発信しています。そのほか、図鑑をはじめとする出版物への写真の提供や協力も行っています。

令和2年度の活動について

一部、協議会・水辺の生きもの部会の部会員として、また専門家として、名古屋市内の池干しや水生生物の調査等に関わっています。引き続き、愛知県内において、希少種・外来種の調査も行っています。

鳥居亮一・谷口義則・浅香智也・大井章豊・向井貴彦・今井洸貴・各務佑紀. 2020. 佐布里ダム調整池排水後の流末水路（信濃川）における水生生物相の変化. 碧南海浜水族館年報,(32)：24-27.

活動団体の紹介 主な活動場所 愛知県全域

三河淡水生物ネットワーク

E-mail：fw-life@katch.ne.jp

ウェブサイト：<http://freshwaterlife.g3.xrea.com>

■例会の予定：なし

名東自然観察会

団体の目的・主な活動内容

豊かな自然環境を後世まで残す為、自然環境を意識する人を増やす事を目的として自然観察会を行いながら参加者の方も楽しんで体験して意識できる活動を行うことをモットーに活動を行っています。自然を大切にする人の参加大歓迎です。「春」「夏」「秋」「冬」自然との対話を楽しみましょう。

令和2年度の活動について

名古屋市名東区猪高緑地内においては昭和58年に会の設立以来、毎月第2土曜日9:30~定例自然観察会を開催してきました。

令和2年度現在までの参加者は観察会11回開催し(令和3年3月現在)3月分を仮定すると令和1年度は150~200名になる予定です。

また猪高緑地内にオアシスの森事業として提案して復元された18面の棚田エリアにおいては、「なごや環境大学」の田んぼ講座活動を連続15年間に渡り、田んぼ体験講座を開催してきましたが、時代の流れ?で田んぼ周辺の環境や田んぼの保護保全の継続に対する意見の変化についていけなくなり平成28年度末をもって田んぼ14チームを解散とし耕作活動も撤退しました。猪高緑地内における第2土曜日の名東自然観察会活動は以前そのまま継続して開催しています。平成30年度から初心に戻り里山環境の残された自然環境豊かな猪高緑地において猪高緑地自然観察会の開催を続行させ自然との出会いで年間テーマを一会一期として参加者の方々と楽しみながら生物多様性の保全・保護・地球温暖化による環境の変化などの観察調査活動を行っています。今後ともご支援・ご参加よろしくお願ひします。



△自然観察会の様子

活動団体の紹介

主な活動場所 名古屋市名東区猪高緑地内・他

名東自然観察会 名東自然観察会代表 堀田 守

設立: 昭和58年4月~初代代表は朱雀栄八郎氏・代表没後H6年度~実績を引き継ぎ継続開催中

TEL/FAX: (052)704-1196 E-mail: hori-tamori@nifty.com

ウェブサイト: <http://homepage3.nifty.com/horitamori/> 《工事中です [名東自然観察会] で検索》

定例観察会: 活動日/毎月第2土曜日9:30~午前中 名東生涯学習センター前集合

その他: 長袖・長ズボン着用・あれば図鑑・虫眼鏡・双眼鏡・汚れてもよい服装・履きなれた靴

名東自然倶楽部

団体の目的・主な活動内容

主に、猪高緑地の保全活動を行っています。その目的の為の活動を8つのグループがそれぞれの分野で行なっています。

- ①里山保全グループ…猪高緑地内の竹林管理、植物保護などの保全活動を行っています
- ②田んぼグループ…復元した棚田で、一年を通した「コメ作り」を体験してもらいます。
- ③炭焼きグループ…猪高緑地で増えすぎている竹を伐採し、竹炭を焼いて、有効利用しています。
- ④自然観察グループ…名東区内で自然観察会を開催し、自然豊かな緑地の魅力を伝える活動をしています
- ⑤総合学習グループ…主に、近隣の小中学校の総合学習の時間で環境学習に協力しています。
- ⑥竹クラフトグループ…猪高の竹で竹トンボ等の竹玩具や道具を作って有効利用しています。
- ⑦調査グループ…緑地の保全の為に、生物、地形、水質の調査や保護活動を行っています。
- ⑧畑グループ…里山景観を残しつつ、有機・無農薬の野菜作りを学びます。

グループ単独のみでなく、各グループが連携して、全体活動やイベントの運営を行っています。

令和2年度の活動について

活動の一覧は右記 Web ページを参照願ひます <http://sizen.ciao.jp/schedule/2020record210331.pdf>



△谷地田で田植え

活動団体の紹介

主な活動場所 猪高緑地 (名東区)

名東自然倶楽部

E-mail: k-takagi@zd6.so-net.ne.jp

ウェブサイト: <http://sizen.ciao.jp/>

■例会の予定: 全体活動日 毎月第1土曜日9:00~12:00、各グループの活動日はホームページを参照願ひます

もりづくり会議



団体の目的・主な活動内容

わたしたちは、身近な森である鎮守の森をよりよく保全するため、またその方法を検討するために、千種区の城山八幡宮を主なフィールドとして活動をしています。小規模な会ですが、みんなで案を出し、様々な企画をわきあいあいと行っています。

もりの保全活動を通じてつながる、人の輪づくりも大切にしています。お気軽に活動を見に来てください。

令和2年度の活動について

本年度に限らず、今までの活動について紹介します。

月1回、定例会議と定例活動を行っています。定例活動の主な内容は、基礎的な活動として、清掃、シュロ・ササ等の除伐、枯れ枝払い、樹名板の製作と設置等を行い、季節的な活動として、アベマキ、アズキナシ、カマツカ等の苗木作りと植樹、生きもの観察会、クラフト作成などを行っています。年末の忘年会では、メンバー自作のゲームやプレゼント交換などを楽しみながら一年の活動を振り返ります。これまでに、なごや生きもの一斉調査のくつつき虫編（2019年）、アリ編（2018年）、淡水貝編（2017年）、カマキリ編（2015年）や陸貝編（2012年）にも参加してきました。

2019年からは、城山八幡宮をはじめ、城山・覚王山地区に残る鎮守の森や斜面林の植生調査を行い、在来種や希少種の保全活動に力を入れていきます。また、地域のまちづくり団体とも交流し、緑のまちづくりの推進を図っています。

活動団体の紹介

主な活動場所 城山八幡宮 ほか城山・覚王山地区内の樹林地

もりづくり会議

E-mail : morikaigi66@gmail.com

■例会の予定：月1回、定例会議と定例活動

守山リス研究会

団体の目的・主な活動内容

1990年から名古屋市東谷山を中心として生息する野生のリス・ムササビをはじめ哺乳動物とその生息地の調査・保全をする中で環境教育をすることを実施。また名古屋市や周辺地域の住民が地域の歴史、文化を含めた「ふるさとの宝」として思い、守っていく活動を目指しています。

- (1)生息する野生のリスをはじめとする哺乳動物とその生息地の調査・保全。
- (2)そういった活動の中で調査された情報を環境教育プログラムとして実施。
- (3)さらに名古屋市や周辺地域の住民が「ふるさとの宝」として思い、守っていくまちづくりを進めるための活動を実施。
- (4)地質や自然の調査保全に獣害、外来種などの対策や神社・古墳の歴史、文化を含めて調査学習し、全てを記録に残して週報・月報「リス研通信」として会員・関係者に報告しています。

令和1年度～令和2年度の活動について

- (1)毎週5+新規6項目調査として①10台以上の自動撮影装置を1年中森に設置してその行動、生態を調査。②指定樹木20本の胸高直径計測、③指定林床（スズカカンアオイ、ササユリ、ムヨウラン、等）5カ所の日照・気温・湿度・風速計測、④給餌残数計測 ⑤湧水量計測を5年以上継続。新規として5カ所の⑥地温⑦酸性度⑧UV強度⑨炭酸ガス濃度⑩各湧水の塩分濃度⑪導電率の調査を開始。調査時には動物のフン調査・堅果木の実計測調査・テレメ調査で、巣位置・繁殖・棲み分け・行動を調査
- (2)①調査は毎週土曜日だが、なごや環境大学共育講座（15年以上継続）として第三・四土曜日の活動を公開しリス捕獲調査・知恵比べによる発見学習・課題解決学習を体験提供、②エコバルなごやでのリス・ワークショップ活動実施③トワイライトスクール拡大（3校）での座学・リス・ワークショップ実施（月1回3年継続）しかしコロナによる中止活動として④環境デーなごや（11年以上継続のフィールド活動 オンライン化）、⑤東海自然学園講座（30人×2回 13年以上継続）⑥愛知サマーセミナー（14年以上継続の座学とフィールド活動）、⑦秋版オータムフェス出展・リス・ワークショップ実施 2020-2021年にかけてホンドテンとムササビの攻防についての調査。
- (3)地域の獣害・外来種（イノシシ、アライグマ、ハクビシン、ヌートリア）の行動調査実施、山や森の浸食防止のための山道補修維持、エサ樹木の維持植樹、など山や森が浸食されないような調査保全活動を実施。
- (4)外来種調査・駆除活動①オオキンケイギク除伐継続11年、②ムネアカハラビロカマキリ駆除4年③タイワンタケマバチ駆除4年など内外寄生虫や外来種の調査・駆除を継続実施。
- (5)調査をする中で小中学生の観察力強化・環境教育として①市内小中学校の総合学習支援、②環境サポーターズとしてトワイライトスクール支援（3年継続）拡大や、③大学生ボランティアの長短期受入指導、④2015年より継続している卒論テーマ調査のための名城大学の学生さん年間支援とインターン受入活動実施、⑤5年以上岐阜大学との協働で教員免許更新のための先生向け講座⑥名古屋国際学園への英語による座学・フィールド活動や⑦高校生（市邨学園への授業他）支援のための活動中。⑧東谷山で活動する4団体により東谷山シンポジウムを開催し今後の協働活動や交流の在り方を相談。



活動団体の紹介

主な活動場所 東谷山・森林公園ゴルフ場・森林公園・岐阜金華山・軽井沢・孺恋

守山リス研究会

TEL/FAX : (052) 795-2616 E-mail : risuken@kzc.biglobe.ne.jp

ウェブサイト : <http://risuken.sakura.ne.jp/>

■例会の予定：定期調査／毎週土曜日 9：30～13：30

なごや環境大学共育講座+リス捕獲調査：第3土曜日 9：30～13：30（第4土曜日は知恵比講座）

名城大学野生動物生態研究会

団体の目的・主な活動内容

名城大学農学部生物環境科学科・環境動物学研究室の附属サークルです。水生生物部門、鳥部門、哺乳類部門の大きく三つに分かれて活動しています。卒業研究などで必要になるデータの取り方、扱い方を学ぶことができます。なごや生物多様性保全活動協議会をはじめとする環境保全団体と協力しながら活動しています。

令和2年度の活動について

水生生物部門：カワバタモロコの域外保全。水路、ため池調査
鳥部門：名古屋市近辺での探鳥会開催
哺乳類部門：守山リス研究会の定期調査への参加



△カワバタモロコ



△探鳥会の様子



△リス追跡の様子

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市周辺

名城大学野生動物生態研究会

公式Twitterアカウント：@yamonken_abms

■定例会：名城大学N324で毎週水曜日12：30～12：50

矢田・庄内川をきれいにする会

団体の目的・主な活動内容

きれいにする会は昭和49年12月27日に結成（会則は翌年5月制定）されました。当時の日本は高度成長期の真ただ中にあり、水も大気も汚れるのが当たり前の時代でした。その時、きれいにする会は「庄内川水系を汚すすべての汚染源に対し、きれいで快適な生活環境をとり戻し、次代へ引きつぐ」ことを目的として掲げ、活動を開始しました。

令和2年度の活動について

- ・冊子「庄内川の語り部－次世代に伝えたいきれいだっただあの頃－」の発行・配布（4～6月）
- ・「環境デーなごや2020」への動画出展（9～11月）
- ・「第45回庄内川まつり魚釣り大会」の実施（11月）
- ・「小さな自然再生現地研修会in名古屋・矢田川」の開催（11月）
- ・特別企画「都市の奇跡環境デーなごや2020・庄内川友釣り大作戦」の開催（11月）→名古屋駅からわずか2kmの都市部で天然アユの友釣りを成功。
- ・才井戸流れ水質調査（11月、1月）
- ・「庄内川における生物等の異臭調査」の実施（1月～）
- その他
- ・「ウナギ登りアシスト～日本初、既設魚道に適応したウナギ専用魚道の設置の試み～」があいち・なごや生物多様性グッドプラクティスに選定

活動団体の紹介

矢田・庄内川をきれいにする会

TEL：(052)794-3876 FAX：(052)796-2344 E-mail：yadashounai@gmail.com

ウェブサイト：<http://www.yadashounai.org/>

■例会の予定：4月総会、以降不定期に役員会開催

庄内川の語り部

一次世代に伝えたい、きれいだっただあの頃－

きれいだっただあの頃の庄内川を知る人々から当時の様子や体験などを聞き取り、冊子として取りまとめました。



△冊子「庄内川の語り部」



△冊子「庄内川の語り部」

山崎川グリーンマップ

団体の目的・主な活動内容

都市河川である山崎川は、まわりの都市化と開発のため、戦後70年の間に大きく環境が変わりました。そして、現在は人が放流した外来種のために、本来の生態系が崩れつつありました。山崎川グリーンマップは2008年より、ミシシippアカミガメやカダヤシなどの外来種の防除を続けています。

近年の夏の猛暑と大型護岸工事により、山崎川の環境は大きな影響を受けていると思われます。しばらく注意深く様子を見ていく必要があります。

令和2年度の活動について

- ① 5月初旬 アユの遡上を含む山崎川の生物調査開始
- ② 7月13日（月）毎年行っている瑞穂区汐路小学校での山崎川の環境に関する授業の準備。山崎川の生物と作成したP.P.を先生にお渡しし、授業のお願いをする。
- ③ 7月26日（日）山崎川夏休み山崎川生き物観察会実施。
COVID-19感染予防のため、少人数で効率よく行った。
- ③ 8月2日（火）夏休み山崎川サマースクール
- ④ 2021年3月 山崎川生きもの図鑑・改訂版を完成させる。



△7月26日夏休み山崎川生き物観察会



△8月2日夏休み山崎川サマースクール

活動団体の紹介 主な活動場所 名古屋市内瑞穂区の山崎川

山崎川グリーンマップ

TEL/FAX：(052)841-6048 E-mail：a-ohya@sc.starcat.ne.jp

ウェブサイト：<http://www1.m1.mediakat.ne.jp/a-ohya/>

■例会の予定：不定期（ウェブサイトを確認下さい）



「なごや市民生きもの調査員」募集中！

なごや生物多様性保全活動協議会や協議会会員団体が行う生物調査や講習会、イベントなどの情報をメールでお届けします。どなたでも登録いただけます。詳しくは協議会ウェブサイトまで。

令和2年度 なごや生物多様性保全活動協議会 活動報告書

発行年月 令和3年4月

発行 なごや生物多様性保全活動協議会

(事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内)

〒468-0066

愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-700-7792 FAX 052-839-1695

ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>